

Access

 高速バス利用の場合

東 京	4時間 夜行	米 子 JR米子駅前 バスターミナル
京 都	4時間20分	
大 阪	3時間40分	
広 島	3時間30分	
福 岡	7時間50分 夜行	

 鉄道利用の場合

東京	3時間20分 JR新幹線のぞみ	岡山	2時間10分 JR特急やくも	米子 JR米子駅
新大阪	50分 JR新幹線のぞみ			
広島	40分 JR新幹線のぞみ			
博多	1時間50分 JR新幹線のぞみ			

米子駅から米子キャンパスへは徒歩で約15分、
タクシーで約5分、米子市循環バスで約8分

 航空機利用の場合

東京 1時間15分 米子
米子鬼太郎空港

米子鬼太郎空港から米子キャンパスへは
タクシーで約20分(米子鬼太郎空港→JR米子駅(連絡バス約30分))

 自家用車利用の場合

大阪から 約 3 時間 30 分

中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子パイパス経由

岡山から 約2時間
中国自動車道 落合JCTから米子自動車道経由 米子ICから米子パイパス経由

■ 松江から 約30分
国道9号経由



鳥取大学米子地区事務部学務課

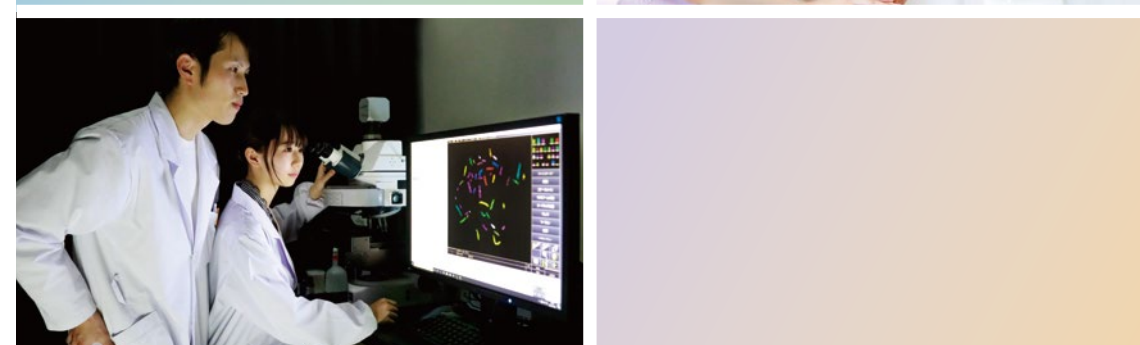
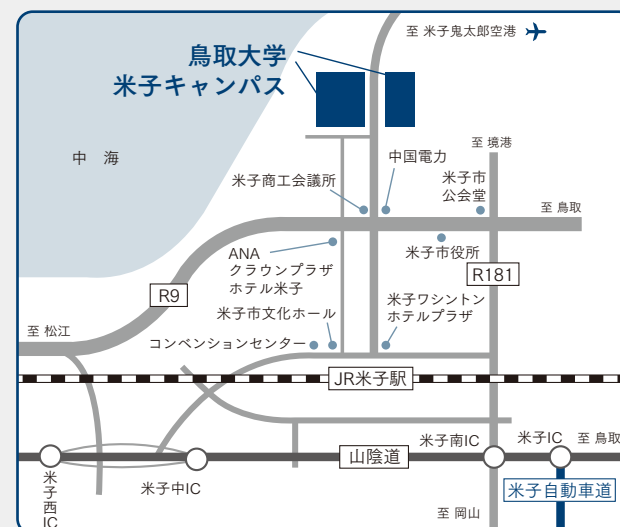
〒683-8503 鳥取県米子市西町86
TEL:0859-38-7096(学務課教育企画係)



鳥取大学医学部HP
<https://www.med.tottori-u.ac.jp/>



鳥取大学医学部附属病院HP
<https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/>



TOTTORI UNIVERSITY
Faculty of Medicine



鳥取大学医学部

医学科

生命科学科

保健学科 看護学専攻

保健学科 検査技術科学専攻

2023

GUIDE BOOK

山陰の地で学ぶ、 先端医療

医学部理念

鳥取大学医学部は、医学科、生命科学科、保健学科がお互いに連携を取りながら、生命の尊厳を重んじるとともに創造性に富む医療人や生命科学者を養成する。

医学部の教育目標

鳥取大学医学部は山陰地方の歴史と伝統ある医学部として、21世紀にふさわしい医学、生命科学、保健学を修得し、これを実践できる人材を育成するための先進的な教育を行う。そして、限りない人間愛を涵養しながら、地域社会の課題を解決し、地域の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指す。

医学科	高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成する。
生命科学科	生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を養成する。
保健学科	看護学専攻は看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を、検査技術科学専攻は生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成する。

MESSAGE

鳥取大学医学部は、鳥取県西部の商都米子市にあります。山陰のほぼ中央に位置し、南東に中国地方最高峰の大山、北に日本海、西にコハクチョウ渡来南限地でラムサール条約登録の中海を有するこの街は豊かな自然に恵まれています。白砂青松の弓ヶ浜半島から美保湾と大山を望む絶景には思わず息を吞まずにはられません。じっくりと医学を学ぶには絶好の環境です。まさにこの地には“ここでしか学べない医学”があります。

本学の歴史は昭和20年(1945年)設立の米子医学専門学校を前身とし、米子医科大学を経て、昭和24年(1949年)に鳥取大学医学部が設置されました。平成2年(1990年)には、生命現象の基本的な真理の探究や疾患の原因を解明する研究者を育成する学科として本邦初の生命科学科が創設されました。平成11年(1999年)には、看護師・保健師と臨床検査技師を育成していた鳥取大学医療技術短期大学部が保健学科となり、医学部は現在の医学科、生命科学科、保健学科の3学科体制となりました。また、医学を極めるための大学院医学系研究科は、医学専攻、医科学専攻、臨床心理学専攻の3専攻が設置されています。2020年には創立75周年を迎え、これまでに6,011名の医師と1,471名の看護師、730名の臨床検査技師、1,040名の生命科学学士を輩出しており、卒業生は山陰のみならず、全国各地で医学・医療のリーダーとして活躍しています。

鳥取大学医学部の特色は、教育ではミッションであるコミュニケーション教育、イノベーション教育を推進しています。鳥取大学独自の理念である「知と実践の融合」に基づく、「ヒューマン・コミュニケーション」、「メディカル・コミュニケーション」、「基礎手話」等の人間性涵養教育に重点を置いた授業や自ら考えて学修する「研究室配属」、「課題解決型学習(PBL,TBL)」等の創造力を高めるアクティブラーニングを行っており、医学科では医学教育分野別評価(2018年7月受審)でも高い評価を受けました。他者とのコミュニケーション能力を有し、患者さんへのいたわりの心を持ち、リサーチマインドに溢れ、個性輝く創造性豊かな全人的医療人の養成が、本学の大切

な教育目標です。研究では、基礎医学として人工染色体・幹細胞操作技術の医療応用、抗体医薬の開発等を始め、数々の世界的な実績があります。臨床医学では附属病院と協働して先進的なロボット支援手術を中心とした低侵襲治療の推進、新しい医療機器の開発を行っています。また、少子高齢化が進む山陰の特徴を生かし、子どもの健康と環境、生活習慣病、介護、認知症に関する研究も活発に行われています。高度専門医療、地域医療、国際的医療をバランスよく行うことを大切にするとともに、医学科、生命科学科、保健学科の3学科が協働しあうことが極めて重要と考え、学科の枠を超えた合同講義、研究室配属等の教育を行って、医学部全体で発展する体制を整えています。また、学部を越えた医工農連携も積極的に構築し、鳥取大学全体で国連が目指すSDGsを念頭において持続的な取り組みも行っています。

2020年以降、新型コロナウイルス感染の大流行により、世界が一変しています。鳥取大学医学部はニューノーマルにいち早く対応し、感染対策を徹底した対面授業とオンライン学習の環境を整備しました。デジタルキャンパス構想をかかげて、ICTやAIを積極的に活用しながら、さらにより良い環境を目指します。鳥取大学医学部で、「ここでしか学べない医学」に積極的にチャレンジしてみてください。医学・医療、生命科学に情熱を持っている若い皆さんとともに学べることを心待ちにしています。



医学部長
中村 廣繁
Hiroshige Nakamura

CONTENTS

02 医学部理念	04 医学科	22 生命科学科	30 保健学科	38 キャンパスライフ
02 医学部の教育目標	学科長メッセージ	学科長メッセージ	学科長メッセージ／基本方針	40 附属病院
03 医学部長メッセージ	基本方針	基本方針	■看護学専攻	41 入試情報
	学科の特色	学科の特色	専攻主任メッセージ	42 アクセス
	Curriculum	Curriculum	専攻の特色／Curriculum	
	在学生の声	在学生の声	卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声	
	卒業後の進路	卒業生・修了生の進路	■検査技術科学専攻	
	卒業生の声	卒業生の声	専攻主任メッセージ	
	教育・研究	Q&A	実習の様子／Curriculum	
		教育・研究	卒業後の進路／卒業生の声／在学生の声	
			36 教育・研究	



医療の今を支え、新たな医療を切り開く 医師の養成を目指す

MESSAGE

医学科長 海藤 俊行
Toshiyuki Kaidoh

患者中心の医療を実践し、最先端の医学を創造できる医師を養成する

鳥取大学医学部医学科は、山陰地方の中央に位置する米子市の中心市街地にあるため、いわゆる立地偏差値が高く、通学に至便で住みやすい学びに最適な環境にあります。教育では医学知識や診療技能の修得のみならず、プロフェッショナリズムの理解、コミュニケーション能力の向上、リサーチマインドの涵養、イノベーションへの理解、国際的語学力の育成、地域医療に貢献できる人材の育成を目指しています。中でも患者中心の医療で重要なコミュニケーションの教育に力を入れており、ヒューマンコミュニケーションや手話言語の授業では、

対人関係における共感や聴こえない方に必要な診療上の配慮を学んでいます。また、イノベーション教育では、発明楽で機器開発のプロセスを理解するとともに、民間と共同開発した医療シミュレータで臨床技能の向上を図っています。医学科では医師や医学研究者への夢を実現するために、他にも様々な工夫を凝らして教育・研究環境を整備しています。米子の地で学んだ卒業生たちは、地域で、日本各地で、そして世界で活躍しています。皆さんもここで共に学び、素晴らしい医師・研究者を目指しましょう。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部医学科では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部医学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（医学）の学位を授与します。

1. 医師に求められる基本的な知識、技能、態度を修得し、それを生涯にわたって維持向上させる姿勢を有している。
2. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会に対する自身の役割を認識し、患者中心の立場に立った医療を実践する能力を身につけている。
3. 論理的思考力、高度な判断力、コミュニケーション能力を身につけ、他者と協働して医療・研究を行う能力を有している。
4. 常に知的探究心と創造性を持ち、最新の医学的知識を身につけ、国際的な視点で物事を考える能力を有している。
5. 地域や地域で暮らす人を愛する心を持ち、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献する能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育プログラムを導入し、到達目標を明確にし、卒業時までに医師あるいは研究医になるために必要な知識、技能、態度を身につけられるようなカリキュラムを組むことを基本的な方針としています。
2. 人間力を高め、幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
3. 学問に対する興味を深め、学問・研究が社会に貢献している実状を理解させる教育を実践します。
4. 創造力豊かな医療人を育成するためイノベーション教育を実施します。
5. 生命倫理、利益相反、危機管理、環境問題等の社会的に関心の高い学問領域を重視した教育を実施します。
6. 人体および人体標本に対する礼意や倫理に関する教育、守秘義務に関する教育を実施します。
7. 情報社会において安全かつ有効にネットワークを活用できるようにするため情報リテラシー教育を実施します。
8. コミュニケーションの大切さを実感させる教育を実施します。手話をコミュニケーション方法として取り入れるために手話教育に力を入れます。
9. 研究体験、先端医学講義、及び英語論文抄読などにより、リサーチマインドを涵養します。
10. 診療英会話などの実践的英語能力の向上を目指します。海外の学術交流協定校との間で臨床実習体験などの交流を行います。
11. 全人的医療人育成のため、低学年から早期医療体験を通じて、医療従事者としての動機付けを行い、臨床講義終了後に地域医療体験で地域に密着した医療を学ぶとともに地域の保健、福祉、介護の実践と多職種連携の重要性を理解する教育を実施します。
12. グローバルスタンダードを視野に入れた診療参加型臨床実習を実施します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を知識、技能、態度について試験、レポート、評価表等を用いて厳格に評価するとともに、学生の学修成果達成度を可視化することに努めます。
2. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部医学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 医学に関心があり、目標に向かって継続的に努力できる人
2. 医学を学ぶために必要な基礎学力・教養をもつ人
3. 問題を解決するための柔軟な思考力及び豊かな表現力をもつ人
4. 思いやり、責任感及び協調性のある健全な考え方もつ人
5. 医学・医療と保健・福祉の発展に貢献したいと考えている人
6. 地域・国際医療に関心をもち、貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、多角的視野など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

学科の特色

1. コミュニケーション・イノベーション教育を バランスよく配分した魅力的なカリキュラム

モデル・コア・カリキュラム(全国統一の精選された基本的内容)と本学のミッションである特徴的な教育(コミュニケーション・イノベーション教育)をバランスよく配分した魅力的なカリキュラムを皆さんに提供します。特に、本学独自の理念に基づくヒューマンコミュニケーション、手話教育をはじめ、基礎医学体験、小グループに分かれて行うチュートリアル教育など、学生が自主的に選択できる多彩なメニューは魅力に溢れています。基礎的な知識・技術を修得し終えると、CBTとOSCEという全国共用試験を受験します。一定レベルに到達したと判断されると、臨床実習への参加が許可され、皆さんの学修の舞台は臨床の現場へと進んでいきます。2018年度から開始した新カリキュラムではこの臨床実習の期間を66週に延長し、近隣の関連医療機関と連携して、学生も医療スタッフの一員として加わる診療参加型実習を実践しています。

近年、医学教育に対する社会のニーズは多様化し、多彩な人材の輩出が求められています。そのため、私たちの教育方針は基礎的知識に留まらず、自ら課題を探究し、解決策を提案できるアクティブラーニングへと転換を図っています。皆さんのやる気一つで、研究室はいつでも門戸を開放し、自主的研究に取り組む機会を設けています。

2018年7月には、これら一連の私たちの教育内容が国際基準に適合しているかどうかについて、日本医学教育評価機構による分野別評価を受審し、7年間の認定を受けました。医師免許取得後、本学医学科の卒業生は、医療、教育・研究、行政面の多彩な課題に対応すべく、山陰・日本国内・海外のさまざまな地域で活躍しています。

2. 全世界に広がる提携大学への 留学研修が可能

鳥取大学では、夏季休業を利用してカナダの大学等で短期研修を行う制度があり、グローバルな視点を有する医師を育成するため、医学部同窓会も積極的にこれを支援しています。また、海外交流協定締結校や教員の海外共同研究を利用した研修などがこれまで行われてきました。

2008(平成20)年にはアメリカのバーモント大学医学部と学術交流協定を締結し、医学科4、5年次学生が毎年バーモント大学で開催される夏期および春期臨床研修プログラムに参加しているほか、バーモント大学からも数名の学生や教員が鳥取大学での研修に参加しています。また、2013年からフィリピン共和国の保健省関連病院(国立サンラサロ病院)で、2016年からロシアの太平洋国立医科大学、極東連邦大学で、6年次学生の臨床研修を開始しています。2017年からは、おもに3-6年次学生から希望者を募り、イギリスの大学及びイギリス国内の診療所での家庭医療部門研修も実施しています。



1. 腹腔鏡手術シミュレーション 2. ロボット手術シミュレーション 3. 採血のシミュレーション実習

Curriculum

※1〜3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
行動科学	基礎薬理学	医科栄養学	法医学	臨床実習ⅠB	臨床実習Ⅱ
基礎医学体験	基礎消化器学	病理学各論	社会医学チュートリアル・実習		
最新診断・治療学	基礎循環器学	疫学と予防医学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学		
医学史	基礎呼吸器学	研究室配属	皮膚科学		
実験動物学	基礎泌尿器学、基礎生殖器学	メディカルコミュニケーション	産科学		
医用統計学	基礎感覚器学	臨床遺伝学	臨床成長・発達学		
基礎地域医療学	基礎神経学	総合診療・症候学-	臨床感染症学		
免疫生物学	基礎内分泌・代謝学、基礎血液学	臨床内分泌・代謝学	総合感染症学・実習		
遺伝生化学	解剖学実習	診断学	臨床腫瘍学		
発生医学	基礎感染症学・実習	放射線診断学	免疫・アレルギー		
細胞組織学	基礎医学実習	治療学	麻酔科学		
細胞生理学	病理学総論	臨床消化器学	救急医学		
細胞生化学	社会環境医学	臨床循環器学	老年医学		
基礎運動器学	基礎医学特論Ⅰ、基礎医学特論Ⅱ 画像診断入門	臨床呼吸器学	医療情報学		
		臨床運動器学	地域医療体験		
		臨床神経学	PBLチュートリアル		
		眼科学	臨床地域医療学		
		臨床泌尿器学	臨床医学特論		
		臨床生殖器学	臨床実習入門		
		臨床血液学	臨床実習ⅠA		
		神経精神医学			

在学生の 声

鳥取大学の授業には基礎手話、ヒューマンコミュニケーションや地域医療実習など、特徴的な授業があります。勉強は基礎の部分から学び、学年が上がるにつれて臨床的な内容になっていきます。定期試験前は大変と感じるときもありますが、友人と助け合い乗り切ることができます。

医学部は忙しいと思われがちですが、アルバイトもすることができます。私は一年生の夏から飲食店でアルバイトをしています。

大学の授業では学べないことも多くあると考えます。アルバイト先の人やお客さんとかかわることで、今まで自分にはなかった考え方や価値観を学ぶことができると思います。

米子は海と山がすぐ近くにある自然豊かな土地です。夏は海水浴、冬はスキーやスノボなどが楽しめます。大学生活はとても自由です。長期休みなど自分の時間がたくさんあります。自分のやりたいことを突き詰めて、大学生活を大いに楽しんでください！

私の週間 スケジュール (4年次前期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1時限		臨床感覚器学	神経精神医学	臨床泌尿器学	臨床成長・発達学
2時限		臨床感染症学	臨床感覚器学	臨床生殖器学	神経精神医学
3時限	社会医学チュートリアル・実習	臨床泌尿器学	臨床成長・発達学	臨床成長・発達学	臨床感染症学
4時限	社会医学チュートリアル・実習	臨床神経学	臨床神経学	臨床運動器学	臨床運動器学
5時限	補講など	補講など	補講など	補講など	補講など
放課後	アルバイト	部活	自習	部活	アルバイト

平出 のどか さん
医学科5年(東京都出身)

卒業後の進路

(主な卒後臨床研修先：平成29～令和3年度)

北海道・東北

勤医協中央病院
八戸市立市民病院
岩手県立宮古病院

関東

東京女子医科大学病院
東京都立駒込病院
順天堂大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院
日本医科大学付属病院
東京北医療センター
横浜市立大学附属病院
横須賀共済病院
亀田総合病院
東京医科歯科大学医学部附属病院
杏林大学医学部付属病院
筑波大学附属病院
自治医科大学附属さいたま医療センター
獨協医科大学埼玉医療センター
埼玉病院
川口総合病院
千葉中央メディカルセンター
千葉県がんセンター

中部

名古屋大学医学部附属病院
名古屋市立大学病院
トヨタ記念病院
名古屋医療センター
豊橋市民病院
刈谷豊田総合病院
一宮西病院
中東遠総合医療センター
沼津市立病院
伊那中央病院
諏訪中央病院
総合病院聖隷三方原病院
高山赤十字病院
岐阜県総合医療センター
長野赤十字病院
済生会新潟病院
福井県立病院
金沢大学附属病院
金沢医療センター
四日市羽津医療センター

近畿

公立豊岡病院組合立豊岡病院
公立八鹿病院
公立宍粟総合病院
神戸大学医学部附属病院
神戸赤十字病院
済生会兵庫県病院
兵庫県立淡路医療センター
姫路聖マリア病院
大阪大学医学部附属病院
大阪市立総合医療センター
大阪警察病院
愛仁会高槻病院
大阪労災病院
関西医科大学附属病院
ベルランド総合病院
奈良県立医科大学附属病院
市立大津市民病院
滋賀県立総合病院
草津総合病院
京都大学医学部附属病院
京都府立医科大学附属病院
京都第一赤十字病院
和歌山県立医科大学附属病院

山陰

鳥取大学医学部附属病院
鳥取県立厚生病院
山陰労災病院
松江赤十字病院
米子医療センター
松江市立病院
鳥取県立中央病院
島根県立中央病院
鳥取市立病院
鳥取生協病院
浜田医療センター

山陽・山口

岡山大学病院
川崎医科大学附属病院
倉敷中央病院
津山中央病院
岡山医療センター
広島大学病院
広島総合病院
県立広島病院
福山市民病院
呉共済病院
呉医療センター
徳山中央病院
岩国医療センター

四国

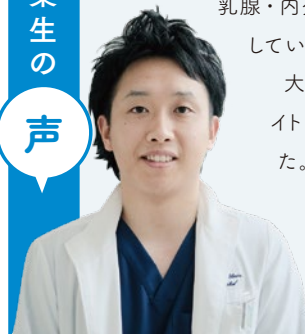
三豊総合病院
愛媛生協病院
済生会今治病院
徳島大学病院

九州・沖縄

高木病院
飯塚病院
佐世保中央病院
長崎大学病院
浦添総合病院
沖縄県立中部病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター



卒業生の声



私は医学科で6年間大学生活を過ごしました。卒業後は公立豊岡病院で研修をし、現在は鳥取県立中央病院呼吸器・乳腺・内分泌外科で外科医として山陰の医療に従事しています。

大学在学中は勉強だけでなく、部活・アルバイト・日本一周旅行など充実した毎日を送りました。研修中は肺移植が盛んな京都大学医学

勤務先：鳥取県立中央病院
呼吸器・乳腺・内分泌外科

中西 敦之 さん （2016年度卒業）

部附属病院呼吸器外科で本邦トップレベルの医療を勉強させていただき、顧みて鳥取大学の医療も決して引けを取らない素晴らしいものであることを実感しました。

現在は「現状維持は退歩の表れ」をモットーに、充実した施設環境の中で外科医としての腕を磨いています。医師としての基礎的な土台を築いてくれたのは、間違いなく医学科での6年間でした。充実した毎日をごさしてくれた環境、関わってきた方たちには今でも感謝しています。一人でも多くの命を助けられるよう、日々精進しています。



解剖学講座……………P11

生理学講座……………P11

統合生理学分野

適応生理学分野

病理学講座……………P11

感染制御学講座……………P12

細菌学分野

ウイルス学分野

医動物学分野

社会医学講座……………P12～13

環境予防医学分野

健康政策医学分野

法医学分野

医学教育学講座……………P13

医学教育学分野

健康運動科学分野

ゲノム再生医学講座……………P14

遺伝子医学分野

再生医療学分野

分子医学分野

病態解析医学講座……………P14～15

生化学分野

薬理学・薬物療法学分野

統合内科医学講座……………P15～16

画像診断治療学分野

臨床検査医学分野

循環器・内分泌代謝内科学分野

消化器・腎臓内科学分野

呼吸器・膠原病内科学分野

周産期・小児医学分野

器官制御外科学講座…P16～18

消化器・小児外科学分野

心臓血管外科学分野

呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

泌尿器学分野

産科婦人科学分野

麻酔・集中治療医学分野

救急・災害医学分野

感覚運動医学講座……………P18～19

整形外科学分野

皮膚科学分野

視覚病態学分野

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

口腔顎顔面外科学分野

脳神経医科学講座……………P19～20

脳神経内科学分野

脳神経外科学分野

脳神経小児科学分野

精神行動医学分野

神経病理学分野

地域医療学講座……………P21

臨床感染症学講座……………P21

医学部附属病院……………P21

薬剤部

医療情報部

解剖学講座

人体の不思議を探究しよう！

教授

海藤 俊行



皆さんは人体の構造について考えたことがありますか？例えば手を使って字を書いたり、スマホを操作したり、楽器を演奏したり様々な活動をしています、手を動かすのに幾つの筋肉が働いていると思いますか？実は30以上の筋肉が3種類の神経の指令を受けて手を動かしているのです。解剖学講座ではこういった医学の基本となる人体の構造や機能について教育を行っています。皆さんは研究に興味はありますか？解剖学講座では…「パスカル曰く、人間は考える葦である。自然の中では弱い人間が偉大になれたのは脳の思考の賜物だよ！：脳の構造と機能の維持機構」「紫外線は細胞のDNAを傷つけるけど、すぐに修復するんだね！：DNA修復機構の研究」「100点満点！頭をなでられると褒められた気分、感覚って不思議だな？：皮膚感覚神経終末の分子発現」「人類の歴史、日本人の起源、それは最大のミステリー：古人骨の形態解析」などの研究をしています。ぜひ鳥取大学で一緒に楽しく学びましょう。

統合生理学分野

健康・疾患をミクロとマクロの視点から統合分析

准教授

木場 智史



生きるためには自律的に恒常性が維持されること（例えば、血圧や体温を一定レベルに保つなど）が不可欠であり、その維持メカニズムに異常が生じた状態が疾患です。統合生理学分野では、生体階層（遺伝子、分子—細胞—組織—器官—個体）を統合的に理解する視座を大事にしながら、いかにして恒常性が保たれ（健康な状態）、また壊れてしまう（疾患）のか、その根幹メカニズムを調べています。具体的には、運動中に筋肉や臓器への血液供給を適切に行うための脳の仕組みや、心疾患でみられる末梢の血液供給の変化の一因となる脳機能の変化とメカニズムを探っています。また、体温を37度に決定づける分子メカニズムの解明や、恒常性維持に関わる物質が心の状態に与える影響の解明にも取り組んでいます。私たちの発見が未来の医学や医療に貢献することを目指し、研究を進めています。

適応生理学分野

生体内外の変化に対する適応現象を解析

教授

松尾 聡



私たちは、呼吸や心臓の拍動を普段意識することはありません。例えばバスに乗車したとき、車窓の景色を眺めることはありますが、呼吸、心拍、姿勢などはあまり意識しません。バスが急停車すると、無意識に一時的に呼吸を変化させ、各筋を緊張させ、更にはドキドキしたりします。急停車によって視覚、内耳、深部覚の入力が変化します。脳は情報の変化を瞬時に処理し、各筋の収縮の強さ・持続時間、呼吸・循環の変化、意識の焦点の切り替え等、膨大な情報を出力します。その結果、適正な姿勢・状態を維持します。どのようにこの解（出力）を決めるのでしょうか？私たちはその機序を、様々なモデルを用い、包括的に理解することを目指しています。また橋渡し研究として、下半身陽圧負荷で感覚入力を変調させることを前庭リハビリへ応用し、難治性めまいの治療に利用することや、浮腫や起立不耐性の対抗策も検討しており、結果を臨床に還元することを考えています。

病理学講座

リサーチマインドを持った病理医を育成する

教授

梅北 善久



病理学講座では、附属病院の病理診断科・病理部の業務（病理診断・病理解剖・病理説明外来・病理専攻医の育成・臨床実習など）を担うと同時に、臨床各科からの大学院生などと共に、主に以下のテーマで研究を行っています。日常、行っている病理診断・病理解剖は全身諸臓器に渡っていますので、全身を俯瞰するトレーニングが自然にでき、研究を行う上で役立っています。病理診断・病理解剖の過程において、疑問に思った点から研究の視点を見出し、独創的な研究を行うことによって、診断病理学の発展を通じた医療への貢献を目指しています。

1. Maspin (Mammary serine protease inhibitor) が悪性腫瘍（乳癌・肺癌・肝癌・口腔癌）の進展に及ぼす分子機構の解明
2. 悪性腫瘍の病理学的多様性形成機序の解明
3. 肺癌及び乳癌の予後不良因子に関する分子病理学的研究 (Laser microdissection法とNGSを用いた病理標本からの遺伝子発現解析)
4. メルケル細胞癌の分子病理学的研究

ミューズ細胞を用いて 感染症を治す新しい挑戦

教授

藤井 潤



新型コロナウイルス感染症が猛威を振っています。私たちは抗菌剤や抗ウイルス剤等の化学物質でもなくワクチンでもない再生医療で使われる幹細胞を静脈注射することで感染症を治す近未来的治療法を開発しています。具体的には東北大学 出澤真理教授が発見したミューズ細胞という再生細胞を使う治療法です。ミューズ細胞は既に脳梗塞や心筋梗塞等に効果があり臨床研究が進んでいます。ミューズ細胞治療の魅力は感染症の後遺症を残さない点にあります。私達は腸管出血性大腸菌O157(O157)等感染で急性脳症を起こした動物(ネズミ)をミューズ細胞で後遺症なく救うことを発見しました。つまりO157等感染により急性脳症を起こして人は死亡することのない新しい時代が訪れようとしています。100年に一度と呼ばれる国難に際し、私達は全力を挙げて感染症の新しい細胞治療法の研究に取り組んでいます。

より広域な感染症対策に 人材育成と研究を通じて取り組む

教授

景山 誠二



新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、世界を巻き込むウイルス感染症の問題の大きさを痛感させています。感染症の脅威を、医療(予防・診断・治療)によって軽減するために、アジア諸国・日本の双方に持続可能な医療のシナリオを作りたいと思います。医学部学生・大学院生・国内外の現場の研究者が、調査・研究の主役です。医学部学生教育は、講義室での「知識の系統化」から始まります。言葉とイメージは現場での意思疎通に必須です。この後、セミナーを通じて「使える知識」に誘導します。さらに、課題解決の当事者意識を育てるため、国際的な視野に立った予防医療の研修を続けています。世界保健機関・西太平洋地域事務所(WHO-WPRO)、フィリピン保健省(DOH)とその関連施設にお世話になっています。また、医学科6年生向けの臨床実習を、フィリピン共和国国立感染症中央病院において実施しています。リアルな現場経験に勝る教育はありません。

多様なバックグラウンドを持つ メンバーが在籍



振動障害やメンタルヘルス等の産業保健医学(産業医の育成に力を入れて行っております)、国際乾燥地研究教育機構(IPDRE)と連携し発展途上国の気候変動が人間や家畜、社会生活に及ぼす影響等を研究しています。環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」にも参加し、母子関係形成、子どもの精神発達等に関する影響を調べています。認知症の早期発見、予防に有効な関連要因について調べています。教育に関しては医学科「社会医学チュートリアル・実習」「社会・環境・医学」「生命倫理学」等を社会医学講座各分野等と共同して実施し、生命科学科「社会環境医学」も担当しています。「早期体験・ボランティア」「日本の文化と心」「環境科学」などの教養科目もコーディネートしています。上記の多様な研究と教育を推進するために、医師のみならず、医療・教育関係者等多様なバックグラウンドを持った人間がメンバーとして在籍しているのが当分野の最大の特徴です。

死者から学び生者に活かす

教授

飯野 守男



法医学は医学部のなかで唯一、死因究明を専門とする分野です。とくに事件・事故の死因、すなわちアンナチュラル・デス(非自然死)のメカニズムを解明することは事件・事故の真相を解明すると同時に、死者の尊厳を守り、ひいては遺族をはじめとした関係者の気持ちを整理するためには欠かせない仕事です。そのために、我々は日々、コンピューター断層撮影(CT)を活用した死亡時画像診断(Ai)による死因究明と、DNAによる法医学遺伝学的な個人識別法の開発を研究の2本柱とし、日常の法医学解剖を通して真実を解明し続けています。また不慮の事故の事例からは、なぜ事故が起こってしまったのか、事故を防ぐ方法はなかったのか、類似の事故の再発を防ぐためにはどうすればいいのかを常に考え、死者から学び生者に活かす予防法医学の学問体系の確立に向け努力しています。「死因究明により生きている人たちの命を守りたい」。この大きな使命感と責任感を胸に教育・研究を続けています。

寄生虫を通じて世界と繋がる

准教授

大槻 均



今、私たちの住む日本で寄生虫の心配をするのは、変わった食べ物を生で食べてしまった(ゲテモノ食い)時くらいのものでしょうか。しかし、わずか70年ほど前の日本人は、8割以上の人が寄生虫を体の中に持ったまま生活をしていました。今の私たちが寄生虫の心配をしなくて良いのは、経済発展のため衛生状態が改善された事が大きいのですが、将来もこの様な社会が続くという保証はありません。また、一步日本の外に出れば、寄生虫による病気は珍しいものではなく、多くの人が寄生虫によって命を落としている世界が広がっています。私たち医動物学分野は、中国地方の医学部で唯一の人体寄生虫を専門に研究している研究室であり、世界中で寄生虫が引き起こす病気に立ち向かうために、次の3つのテーマで研究を行っています。

1. マラリア原虫の赤血球侵入メカニズムの解明
2. 新規抗マラリア薬の開発と標的分子の探索
3. 糸虫幼虫による宿主免疫調整機能の解明

地域に根ざした疫学研究

教授

尾崎 米厚



臨床医学、基礎医学研究とは別の3つ目の医学の柱、社会医学の講座です。疫学、公衆衛生学についての分野で、研究分野は、依存症の疫学(喫煙、飲酒、ネット依存、ギャンブル等)、がんの予防、高齢者の要介護、地域医療や終末期についての調査研究を行っています。学生教育では、1年から4年生の講義、実習を数多く行っています。山陰の地域に出かけて、住民や保健医療福祉関係者との接点の中で学べる教育を重視しています。地域医療・国際保健サークルの顧問をしており、様々な診療科で働く卒業生を中心に社会人大学院生も多いです。国(厚生労働省、文部科学省)、県、保健所、県医師会、市町村、医療保険者等と共に活動も行っています。社会学系専門プログラム責任者も務めています。社会問題となっている健康課題の対策につながる研究、後輩育成としての地域に根差した学生教育、地域社会の健康課題解決への支援の3本柱を基軸に活動しています。

次代を担う医師を育て 未来の医療を創造する

教授

植木 賢



近年、少子高齢化に加え科学技術の進展によりロボットやAIが登場し、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そのため、今後このような社会変化に対応しながら、次世代の医療を創造することは重要な課題です。そこで、本学は世界に通用する最新の教育カリキュラムを取り入れ、理想とする医師像やキャリアプランを思い描く支援を行い、プロフェッショナルな医師としての素養を育成します。また、本学が開発した最先端の医療用シミュレーターロボット等を用いて体験学習を充実させ、確かな臨床技術や心構えを育みます。さらに、“やる気の心理学”や“発明楽”をはじめとしたイノベーション教育により、新しい発想をもち、未来の医療を創造する力を養います。生命の尊厳に触れながら、人に役立つ喜びを感じ、医療・研究を通じて世界の人々に貢献できる医師の育成を目指します。

運動はヒトを幸せにする！

講師

西村 正広

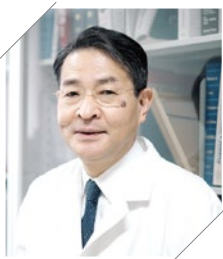


私たちは毎日の生活の中で歩いたり、荷物を持ったりして何かしらの身体活動(運動)を行っています。しかし、その運動量は健康を保つ上で十分な量なのでしょうか?厚生省は「歩行以上の強度で、1回30分以上、週2回以上」を健康に有益な運動としています。我が国の成人において、その運動が実施できている人は約25%、4人に1人程度です。その結果約8割の人が運動不足を実感し、医学雑誌LANCETによれば、運動不足が原因で年間約5万人が死亡していると推計しています。運動が健康にもたらす効果は、心臓病や2型糖尿病、結腸がんなど多くのNCD(非感染性疾患)の予防効果や内臓脂肪の減量効果、身体機能向上などのフィットネス効果、あるいはうつや認知症の予防など様々な領域で認められています。つまり適度な運動習慣を持つことは我々を幸せへ導いてくれるということなのです。私たちの研究室では、対象者の身体状況や基礎疾患などの個人差に応じて、どのような運動がその人を健康へと導いてくれるのかを研究しています。

臨床へフィードバックする 研究を進めよう

教授

汐田 剛史



現代は、日本人の2人に1人が癌に罹患し、3人に1人が癌で亡くなる時代です。一方で、肝硬変、肺線維症などの臓器線維症は、世界の40%の人が本症で死亡すると報告されています。人類を悩ます病気、特にアンメットメディカルニーズと言われる、有効な治療法のない病気は、まだまだ沢山あります。これらの病態を解明し、治療法を開発していかなければなりません。

臨床現場の切実な問題を研究室で解明し、その成果を臨床に還元する研究をトランスレーショナルリサーチと言い、この研究スタイルは、"From bedside to bench, and bench to bedside"とも表現されます。私たちは、トランスレーショナルリサーチを研究スタイルとしています。

本分野は、肝疾患治療用細胞シートなどの再生医療による新規治療法の開発、臓器線維症への創薬、癌幹細胞を標的とする治療法の実現を目指し、患者さんへフィードバックできる研究を進めています。

学際領域との知の融合による 革新的な再生医療の開発



私たちの教室は身体機能の障害を幹細胞で再生することを目的に、基礎研究から再生医療を臨床に届け、再生医療を高度医療に繋げる橋渡し研究をめざします。教育面では医科学を再生医療へと橋渡しできる能力を持つ学部学生ならびに大学院生を育成します。また、橋渡し研究のもう一つの出口である大学発特許取得とその知的財産を用いたビジネスへの参入に関して、幹細胞を用いた創薬に資する分化細胞の開発と特許化を積極的に行います。これらの橋渡し研究を達成するには医学とその学際領域との融合が必要です。当教室は幹細胞生物学を軸として、人工知能等の異分野の知と融合した学際研究を行います。私たちのアピールポイントを以下にまとめました。

- 1.教育：学部学生の時から卒業研究を通して博士前期・後期課程へとシームレスに繋ぐ大学院教育ならびに大学間協定による海外留学生の研究指導システムの構築と実践
- 2.研究：国際特許を軸としてヒトiPS細胞由来のベスマーク細胞等の選別採取の技術

キーワードは「融合」！

教授

今村 武史



薬理学・薬物療法学分野は、基礎薬理学担当の分子薬理学分野と、臨床薬理学担当の治療学分野が「融合」して誕生しました。つまり、基礎研究の成果をベースに臨床応用を目指した一連の研究を展開していくことを目標にしています。研究テーマでは異分野「融合」研究を進めており、代謝性疾患である糖尿病やメタボリック症候群、肥満症に共通して認められる「インスリン抵抗性」をバックボーンとして、その合併症の治療を目指した研究展開を行っています。まず、心血管系分野との融合研究では、インスリン抵抗性合併症としての心不全や不整脈、神経系分野との融合研究では髄鞘形成や骨格筋萎縮に研究の焦点を当てています。附属病院では薬物療法内科外来を担当し、基礎研究成果を臨床研究を介して臨床応用へと橋渡しする、「融合」の目標に向かって日々努力を続けています。融合して下さる同志をお待ちしています。

画像で診る、治療する

教授

藤井 進也



画像診断治療学分野は画像診断、Interventional Radiology（IVR：アイ・ブイ・アール）、放射線治療の3つの分野から成っています。画像診断という言葉は知っていますか？現代の医療では画像診断によって患者さんの体の中を診ることが広く行われています。画像診断には昔から使用されている単純X線（レントゲン）や、体の内部を断面像で詳細に観察するCTやMRI、核医学検査などがあります。これらの検査を基に患者さんの体の中を診て、適切な診断をするのが画像診断医です。IVRは日本語では画像下治療と呼ばれ、画像診断装置を用いてカテーテルというものをを用いて血管内治療等を行っています。血管の詰まりや止血、がんの治療を主に行っています。放射線治療は悪性腫瘍に対する治療の一つとして重要な役割を果たしています。診断困難な病気を画像診断で診断可能にしたり、治療に難渋していた病気がIVRや放射線治療により治療可能になるべく、臨床研究や基礎研究に取り組んでいます。

遺伝子治療の先端にふれる 鳥大発の次世代バイオ創薬

准教授

中村 貴史



従来の手術、抗がん剤や放射線の標準療法に抵抗性を示す難治性悪性腫瘍に対して、新しい治療法の実現が望まれています。その一つとして期待されているがんウイルス療法は、様々なメカニズムによって腫瘍を攻撃できる利点があり、ウイルス増殖による直接的ながん細胞の溶解死滅に加え、それに伴って抗腫瘍免疫が賦活化され全身に治療効果を及ぼす、これまでにない全く新しい概念に基づいた治療戦略です。我々は、"どのようにウイルスが細胞に感染し増殖するか？" また、"どのようにウイルスが抗腫瘍免疫を賦活化するか？"といった疑問を分子レベルで解明することを起点にして、正常細胞を傷つけずにがん細胞のみを標的破壊できる、既存のがん免疫療法で奏功しない腫瘍に対しても抗腫瘍免疫を賦活化できる、より安全で効果的ながん治療用ウイルスシーズの創出とトランスレーショナルリサーチを推進しています。また、その実践教育を通して最先端医療の遺伝子治療分野に貢献できる人材を育成しています。

身体や空間・時間を イメージできる生化学を目指す

准教授

中曾 一裕



生化学分野は教育面では生化学（細胞生化学）と関連基礎医学領域を担当しています。生化学教育では、とく平面的な学問となりやすい生化学を、いかに立体的かつ身体をイメージできる形で伝えられるかという点に重きを置いています。研究面でも、試験管・細胞レベルだけでなく、個体レベルまで発展が期待できる研究を重視しています。直近20年は酸化ストレス関連研究が主流でしたが、近年では一つの現象を別の視点から捉える考え方を研究に取り入れています。例えば「ある分子の酸化」という現象を例に挙げると、周辺の分子は相対的に還元状態になったと捉えることができますし、「ある細胞が強力になった」とすれば、周辺の細胞は相対的に弱くなったと捉えることもできます。生体で起こる現象は、どの視点から観測するかによって正反対の現象にも捉えることができ、集団の中では相対的な力関係の変化が常に生じていることに注目する考え方です。我々の身体の中にはこういった相対的な力関係を変化させる分子メカニズムが存在します。これらの考え方を元に、認知症・うつ症状モデル、敗血症モデル、炎症性腸疾患モデルなど、臨床的な考え方にもつながるテーマに力を入れています。

ナノ粒子の世界を探求し 新たな臨床検査を創出する

教授

本倉 徹



当教室では、臨床検査・臨床血液学の教育ならびに検査部・血液内科の診療を支援しています。研究面では、血清・血漿や尿などの体液中に存在する50nm～500nmほどのナノ粒子に着目して研究を進めています。とりわけ50～100nmのエクソソームは、細胞間情報伝達系としての役割を担っており、様々な疾患のバイオマーカーとして注目されています。当研究室では、Epstein-Barrウイルス（EBV）関連疾患で血清中に分泌されるナノ粒子中に存在するEBV-encoded small RNA1が、バイオマーカーとなる可能性を探求しています。また、EBV感染により発現が亢進するvault RNAは、細胞内ナノ粒子Vaultと関連して発見されましたが、細胞外にも分泌されています。こうしたnon-coded RNAの血清中の局在や疾患との関連を明らかにするとともに新たな臨床検査法の創出することを目指しています。

情報発信能力のある 医師を目指して

教授

山本 一博



我々は山陰地方の最後の砦として高度な医療を提供する役割を担い地域完結型医療を実現するために、日々努力をしています。しかし医療分野には多くの解明されていない事案が残されており、定型通りに診療を行うだけでは高度な医療を実現できません。日々の診療の中でそのような事案に関連する問題点に気づき、その解決に向かって研究を進め成果を発信する、という一連の活動の中で、より高い技能や知識が身に付き、目標とする高度な医療を担うことができる医師に成長していきます。つまり良い医師となるには、良い研究者でもあることが求められます。我々が専門とする循環器疾患、内分泌代謝疾患に罹患している患者さんは多い上に、これらの領域は研究範囲が広く、基礎研究から臨床研究まで色々な角度から情報発信をする機会があり、我々は日々の診療と並行して研究活動も進め、この地域の患者さんの期待に応えることができるように努めています。

総合消化器内科専門医・ 腎臓内科専門医の育成

教授

磯本 一



当教室は第二内科診療科群として主に消化器疾患と腎臓疾患を担当しており、内科各領域・関連各科との連携のもと大学病院の専門診療を行っています。まずプライマリーケアと救急疾患に対応できるよう医師としての基本教育を重視します。専門医の指導のもと消化器病と腎臓病の臨床経験を積める講座の特性を活かして全身を診る内科医としての総合力の涵養につとめます。その上で高次病院における先進医療を実践し高度な専門医療・地域医療を担える総合力の高い消化器内科医を養成します。また、学内外の基礎医学教室と共同して、学際的な研究に取り組むことで消化器病学、腎臓病学の病態の理解が深まり、臨床医としての成長にも繋がるものと思います。

呼吸器・膠原病内科とは

教授

山崎 章



私たちの教室では、呼吸器、膠原病の診療・研究を行っています。呼吸器の疾患には、肺炎や間質性肺炎、喘息、肺癌、膠原病には関節リウマチや強皮症、SLEなどがあります。呼吸器と膠原病を1つの教室でみる大学は日本でも数少ないですが、膠原病には呼吸器疾患が合併することもあり、また、肺癌の診療の中で膠原病の様な症状も出てくることもありますので、1つの教室でこれらの疾患の診療を行うことはとても有意義です。このメリットを研究にも生かしています。基礎研究として肺癌の免疫に関する研究、気管支喘息に関わる平滑筋細胞の研究、強皮症の線維化に関する研究などを行っています。また、臨床研究として多施設での肺癌の研究、難治性疾患である間質性肺炎の画像や臨床像に関する研究などを行っています。まだまだ呼吸器や膠原病はわかっていないことが多く、興味深い領域です。また全国的にも専門医が少ない領域です。一緒に勉強してみませんか。

心臓血管外科における 研究・最先端治療を押し進め、 次世代に繋ぐ価値を創造する

教授

西村 元延



心臓血管疾患の外科的治療は、人為的に心臓を停止させることが必要であったり、人為的に循環を維持することが必要であったりするため、人工心肺装置、心筋保護液などの特殊な補助手段が必要となります。安全・安心な治療のためには、そういった補助手段を向上させていくことが重要となりますし、また、その発展として、補助人工心臓や再生医療の開発・研究も必要です。心臓血管外科学分野では、中四国地方で屈指の心臓血管外科手術数の臨床経験をベースに、補助人工心臓治療や再生医療の研究を押し進め、また一方では、患者さんに優しい治療としての低侵襲心臓手術や血管内手術、手術支援ロボットダヴィンチを用いた心臓手術などの実践を行っています。そうすることにより、優れた心臓血管外科治療を次世代に繋ぐことができますと考えています。

肺がん・乳がんの撲滅に向けて できることは全てする！

教授

中村 廣繁



教室のモットー「仕事を追え!仕事に追われるな!」
ルーツは1956年開講の外科学第二講座です。2005年に診療科として附属病院胸部外科が独立しました。2013年に呼吸器外科、乳腺内分泌外科の需要の高まりを受け、胸部外科学分野として開設され、現在に至っています。当分野は肺がんと乳がんを中心に山陰一の高度な診療と研究を行っています。胸腔鏡や手術支援ロボットを駆使した低侵襲外科手術は全国のトップレベルとして良好な成績をあげており、指導的立場です。研究では病理学講座と協力して、肺がんと乳がんに対して悪性度や分子生物学的プロファイルの解析を行っています。また、手術や抗がん剤の治療成績、手術手技や医療機器開発を学内外の施設と共同研究しています。常に最高レベルの技能と外科マインドを備えた人間力溢れる外科医の育成が目標です。肺がん・乳がんを中心に関連施設と連携し、市民講演や検診により、がん撲滅に向けてできることは全て行います。

すべてのこどもに最善の医療を

教授

難波 範行



小児の特徴は「成長」することと「発達」することです。周産期・小児医学分野では、日々成長する小児の不思議に着目し、成長をキーワードとして研究を進めています。みなさんは、成長は当たり前のように起こることと思っていませんか。でも、なぜヒトの成人身長は160〜170cm前後なのか、なぜ靴のサイズは25cm前後なのか、実は分かっていません。体の大きさを決める重要な要素の1つに、われわれの体を構成する206個の骨があります。私たちは、ヒトiPS細胞を使って、なぜ個々の骨の伸びは異なるのか、特定の骨だけ大きくできないか、チャレンジを開始しています。その他にも希少疾患の網羅的遺伝子検査など、様々な研究を進めています。

このように、日々の診療の中で湧きでる疑問を大切にしつつ、最終的に「すべてのこどもに最善の医療を」届けられるように、日々努力しています。あなたも一緒に小児の成長を科学しませんか。

山陰から世界に発信する臨床、 研究、そして教育の実践

教授

藤原 義之



消化器外科では、消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌など)の治療を主に行っていますが、良性疾患(胆嚢炎、ヘルニア、虫垂炎など)や急性性腹症にも対応しています。上部消化管(食道、胃)、下部消化管(小腸、大腸)肝胆膵の3グループに分かれ、高度な専門的治療を行っています。近年、体にやさしい手術(ロボット手術を含む鏡視下手術)が普及してきており、我々は積極的に導入しています。又、高度進行癌に対しては手術、抗癌剤治療、放射線治療を組み合わせた集学的治療・先進的治療を行い治療成績の向上を目指しています。小児外科は、長谷川利路 特命教授を中心に、新生児も含めた小児に対し、心臓、脳、整形を除く全疾患の外科治療を提供する、鳥取県では唯一の診療科であり、かつ最後の砦です。先天奇形、腫瘍、外傷などあらゆる病態に対応することが求められる、やりがいのある部門であるとともに、将来を担う若手外科医の教育にも力を入れています。

グローバル(think globally, act locally)な 泌尿器科を目指す

教授

武中 篤



グローバルとは、地域に密着した診療の中で常に世界に発信する医療を実践するという当教室のキャッチフレーズです。診療と研究を一体のものと考え、診療に溢れている素朴な疑問を研究に生かしています。研究の柱は低侵襲手術、尿路性器悪性腫瘍、尿路性器機能障害です。低侵襲手術についてロボット手術の国内トップランナーであり、基盤となる世界的な外科解剖に関する知見を多数報告しています。医工連携による医療機器開発にも取り組んでいます。尿路性器悪性腫瘍についてはロボット手術の多施設共同研究を主導するとともに、抗癌剤治療に関する多くの多施設共同研究に参画しエビデンス構築の一翼を担っています。また悪性腫瘍とmicro RNAについての研究を進めています。尿路性器機能障害については排尿障害に対する本邦初のボツリヌス治療を行い、本治療の保険収載に向けた活動で主導的役割を担ってきました。また男性不妊に関するイオニア大学との国際共同研究も行っています。

新しい命の誕生と 女性の生涯サポート

教授

谷口 文紀



少産・少子の時代である今日、ドラマチックな女性の一生をトータルに支える産科婦人科の重要性が再認識されています。当科では、地域連携を大切にし、大学病院のメリットを生かした質の高い最先端の医療を提供してまいります。教育面では、地域医療、さらには日本の医療の中心となって活躍できる人材の育成を目標とします。周産期分野では、多胎妊娠・妊娠高血圧腎症などの研究により得たデータに基づく安全な医療を提供することで、患者さんが安心して分娩できるよう全力を尽くします。生殖医療分野では、体外受精などの生殖補助医療の推進のみならず、不妊症の原因疾患である子宮内膜症の治療薬開発ならびに病態解明につながる研究を手掛けています。腫瘍分野では、婦人科がんを対象とした腹腔鏡やロボットを用いた手術を推進し、腫瘍発生メカニズムや治療法について追及しています。このような取り組みにより、将来の幅広い診療につなげていけるよう日々努力を重ねています。

麻酔・集中治療医学分野

器官制御外科学講座

疾病ではなく、人を診る
全身管理のエキスパート集団

教授

大槻 明広



麻酔・集中治療医学分野は、麻酔科として手術麻酔業務を核として、術前の患者管理から術後の集中治療部における高度な患者管理まで、周術期で患者の安全と予後の向上、手術の円滑な遂行を目指して活動しています。集中治療部 (ICU) では、最新の呼吸循環管理や感染制御、人工臓器の使用などによって、救命が困難と予想される重症患者の生命予後を向上させています。担当する麻酔科医は、麻酔管理で培った全身管理技術を一層高めて、綿密な治療計画に従って治療を推進しています。麻酔科は、全身管理のエキスパートの集団です。これら急性期医療と対照的に、疼痛外来や緩和ケアチームを通して、患者の疼痛を緩和する慢性医療へも貢献しています。麻酔科は、疾病を対象とするのではなく、疾病をもったヒト (患者) を対象としている診療科です。また、研究科としては、呼気中麻酔薬濃度の連続測定やICUにおける認知機能低下に対する薬物効果など、臨床の知見を基礎研究に結びつけ、さらに臨床にフィードバックするトランスレーショナル研究を推進しています。

救急・災害医学分野

器官制御外科学講座

災害時医療を平時の救命医療に
近づけて、防ぎえた災害死をなくす

教授

本間 正人



1995年阪神淡路大震災では500名もの「防ぎえた災害死」が発生した。防ぎえた災害死とは、もし平時と同じレベルの救急医療が提供されていたならば救えたはずの命。被災地内の病院は、通信も途絶し、電気・水・水道・ガスいわゆるライフラインの障害により医療の継続が出来ませんでした。当時は日本赤十字社・日本医師会等から多くの医療救護班が駆けつけたが、どこに行けば良いのか、誰の指示に従えば良いかもわからず、診療の開始も救命の72時間を大きく過ぎてからでした。当日ヘリコプターで搬送された患者はたった1名でした。われわれは厚生労働省科学研究を通して、DMATの構築と制度化に取り組み、災害に強い病院のために業務継続計画 (BCP) 作成の手引き、自衛隊輸送機を用いた患者搬送等の指針やガイドライン、研修教材等を提供してきました。われわれの研究を通して、東日本大震災や熊本地震での医療対応が確実に進歩しています。

視覚病態学分野

感覚運動医学講座

眼を究める
サイエンスが見える

教授

宮崎 大



視覚は、quality of life (生活の質)を保つためにとても重要であり、視覚病態学は視覚の改善や保持に責任をもつ科です。角膜、網膜、緑内障、弱視などさまざまな分野を担当し、角膜移植、緑内障インプラント、硝子体手術加療を含めた多くの手術治療を手がけています。また、涙道疾患の内視鏡手術にも力を入れています。当教室の特徴は、眼の難治性感染症を分子レベルで診断し治療することができるという特徴です。これを発展させ、人工知能 (AI) 技術により、角膜画像から病原体を予測するシステム構築を行ってきました。また、AIや機械学習技術を用いてアレルギー疾患の診断や管理を行うためのデータベース構築も多施設を主導して始動しています。研究面では、角膜の透明性維持を目標としたウイルス感染症の基礎研究に加え、加齢性黄斑変性症や緑内障に対しては、患者さんの前房水や涙液中エクソソームによるリキッドバイオプシーを用いて治療標的の探索、検証を行っています。古典的な感染症に始まり、最先端のAIなどのツールを駆使し、さまざまな眼疾患の診断や治療技術の開発に取り組んでいます。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

感覚運動医学講座

患者さんの命と機能を守り
新たな技術を社会へ還元する

教授

藤原 和典



耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野は、咽喉頭、耳、鼻、甲状腺を主に扱う診療科です。感染症や腫瘍の治療に加え、声、匂い、聴力、嚥下などの機能を回復させる治療も手掛けます。特に、低侵襲な外科治療に力をいれ、それぞれの領域で内視鏡手術を積極的に行っています。中でも咽喉頭癌の内視鏡手術やロボット手術では、全国でも中心的な施設として活動しています。超音波でのエラストグラフィや嚥下運動の解析などの臨床研究に加え、基礎研究では、頭頸部癌におけるスフィンゴ脂質の効果や腫瘍血管の解明に加え、再生医療分野としては脂肪肝細胞による声帯再生についても研究しています。その中から、臨床に応用できる研究も生まれてきています。医療機器では、経口内視鏡挿入時の咽喉反射を少なくする「ギャグレスマウスピース」、耳の疼痛の少ない「やわらか耳鏡」、そして新たな嚥下障害検査機器などを開発し、社会に還元できる技術の開発にも取り組んでいます。

整形外科学分野

感覚運動医学講座

健康的で豊かな生活を
鳥取から世界へ

教授

永島 英樹



整形外科はよく美容整形と間違えられますが、整形外科では顔は治せません。骨、関節、神経 (脊髄を含む)、筋・腱、靱帯、微小血管など運動器の疾患や外傷を扱う診療科です。骨折、脱臼、膝前十字靱帯損傷、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症、関節リウマチ、骨肉腫などが代表的な疾患・外傷です。名称に外科と付いていますが、手術だけでなく運動器の内科的治療 (保存療法) も行うので、大変忙しい診療科です。研究は、高齢化が進む山陰で高齢者整形外科疾患の病態と治療成績などを研究し、国際雑誌に報告しています。また、企業と共同で腰痛のメカニズムや膝関節エコー検査方法の改良、本学工学部と共同で軟骨保護などをテーマに行っています。今後は、損傷脊髄の再生を阻害しているグリア瘢痕の抑制に関する研究や、加齢に伴う変形性関節症の病態と考えられている内軟骨性骨化による関節軟骨の菲薄化を解明する研究を計画しており、新しい薬物療法に繋がればと期待しています。

皮膚科学分野

感覚運動医学講座

仁義智

教授

山元 修



我が教室の理念は「仁義智」でございます。仁は「愛」、義は「人道に尽くす」、智は「知力」、または、「仁義」 (他者に対し礼を尽くす) と「智」です。皮膚病で悩む患者さんに対して医療を尽くす、そのためには揺るぎない知識が必要です。従って、当科における臨床鍛錬は過酷ですが、生半可な知識で患者さんに臨むことは、その人生を左右しかねませんので、致し方ないとお考え下さい。研究について紹介するよう命じられていましたが、ここでは特筆いたしません。どうしてもお知りになりたい方は、医学部が公式に出している英語論文業績集をご覧ください。教室の廊下に貼り出している全教室員の英語論文ホルダー内の別刷をご覧くださいませ。なお、教室員には全員愛称を付けており (紹運将門、寅次郎、梅ちゃん、玄百、与一鹿介、干城、大祝鶴姫、乱丸、聖少納言、軍師官兵衛)、また掲載のような似顔絵をプレゼントしており、和気藹々とした雰囲気醸し出しております。

口腔顎顔面外科学分野

感覚運動医学講座

口腔の機能を維持する

教授

小谷 勇



口腔は、顔の下約1/3程のスペースを占める小さなものですが、その機能は咀嚼、嚥下、発音、呼吸と重要かつ複数の機能を有しています。その機能を失う疾患が我々の治療対象、研究対象となっており、現在、以下の研究に取り組んでいます。

【口唇裂・口蓋裂】口蓋裂術後に行う言語訓練時に使用する「鼻息鏡」で、評価が正確に行える新しい装置の開発に取り組んでいます。

【口腔癌】がん抑制遺伝子の一つであるmaspinと口腔癌との関連についての研究をしています。maspinは細胞内局在の評価により、予後予測因子となるのではないかと期待しています。

【新規骨再生法の開発】ヒト間葉系幹細胞の骨分化能に着目し、ゲノム編集技術により骨分化マーカーを可視化できるモニター細胞の作製に取り組んでおり、このモニター細胞を利用して新規骨再生法の開発を目指しています。

病気になっても、できるだけ口腔機能を維持できるように日々取り組んでいます。

脳神経内科学分野

脳神経医学講座

神経疾患のしくみを知り
謎を解く

教授

花島 律子



脳神経内科は、末梢から中枢神経、筋肉さらに高次機能まで神経に関わる全ての疾患を扱う科です。神経疾患にはまだ発症機序が不明なものも多く、治療法がないものもあります。このような中で、私たちは生化学、神経生理学や神経病理学、疫学研究、動物実験など様々な手法で、神経疾患の発症機序や病態の解明に取り組み、早期診断法の確立や治療法の開発を目指しています。具体的には、以下の様な研究です。

- ・経頭蓋磁気刺激などを用いた脳の可塑性や興奮性の神経疾患での変化の分析
- ・髄液・血清検体での特異的バイオマーカーの確立
- ・筋萎縮性側索硬化症モデルマウスに対する神経移植による治療の開発
- ・神経変性疾患の剖検脳でのタウ病変の分析など (このほか、アイディア次第です)

20〜30年前までは診断も困難で謎の難病だったものが、今では確定診断ができ病態も解明され治療が試みられているものもあります。是非、神経疾患の謎に取り組んでください。

トップナイフとして すべてを患者さんのために

教授

黒崎 雅道



脳神経外科学分野の診療は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患、中枢神経先天奇形疾患など多岐にわたります。脳血管内治療や脳腫瘍手術では、中国四国地方でトップクラスの症例数、治療成績を誇っています。間脳下垂体腫瘍に関しては、低侵襲で高難度の内視鏡下経鼻的頭蓋底腫瘍摘出術を耳鼻咽喉科と合同で行い、内分泌代謝内科、小児科、神経放射線科などと症例の検討を重ねています。脳血管障害に関しても、救急科、脳神経内科と連携をとり、脳神経血管内治療指導医を中心に的確な治療方針に基づいたチーム医療を行っており、鳥取県唯一の『地域においてコアとなるPSC（一次脳卒中センター）施設』に認定されています。研究面では、DPCのbig dataを基にした疫学的研究、神経膠腫の悪性化のメカニズムに関する研究、臨床解剖教育研修センターにおける微小脳神経外科解剖研究などの臨床および基礎研究で実績を上げています。

こどものこころとからだの 発達に寄り添う

教授

前垣 義弘



脳神経小児科は、小児期に発症した神経疾患と子どもの神経発達に関する全てに対応しており、これらに該当する対象は子どもの10%を占めます。神経疾患診療として、けいれんや意識障害に対する救急対応、リソゾーム病の酵素補充療法など先端医療、神経難病の診断・治療を行っており、医療的ケア児の呼吸・循環・栄養などの全身管理も行っています。また、発達障害は子どもの7～8%を占め、その診断と治療を行っています。さらに、障害児の家族支援と地域連携による在宅支援も行っています。子どもの神経と発達に関する全てに対応している診療科は全国でも当科のみですので、全国から多くの小児科医が研修に来ています。本科は、患者に寄り添える質の高い小児神経科医の育成を目指しています。

脳神経小児科の特徴

- ・全身を丁寧に診る
- ・先端医療(ライソゾーム病に対するシャペロン療法の開発)
- ・患者と家族に寄り添う
- ・チーム医療：院内外の多職種と連携

まなび、ひろがり、つながっていく 地域医療と総合診療

教授

谷口 晋一



地域医療学講座は2010年に鳥取大学ではじめて設立され、医学部での地域医療に関する教育・診療・研究をおこなっています。地域医療とはCommunity-based Family Medicineと定義し、欧米の家庭医療学(family medicine)の考え方と日本独自の医療システムの両方を整合して学べるように工夫しています。地域医療はプライマリ・ケアの実践現場から学ぶことが不可欠なので、教育サテライト施設として日野病院(地域医療総合教育研修センター)、大山診療所(家庭医療教育ステーション)を準備しています。この2ヶ所で、地域医療学講座の教員が実際の診療を行いながら、臨床実習Ⅰ、Ⅱの医学学生の指導を行っています。卒後では、総合診療専門医を育成するため「鳥取の総合診療医を育てるプログラム」を運営し、総合診療医の育成に努めています。地域医療学は新しい分野ですが、生物医学的視点だけでなく生物心理社会モデルを活用することで、患者の全体像をみる統合的な医学を目指しています。

感染症に対峙し、克服する

教授

千酌 浩樹



現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの社会は多大な影響を受けています。本疾患の克服や、今後も人類を襲うであろう新興・再興感染症に対処していくためには、感染症診療に関する専門知識をもった医師の存在が不可欠です。臨床感染症学講座は、そのような人材を養成するために鳥取県からの寄附講座として誕生しました。私たちは、各種の感染症に対する診療を行いながら、院内外における伝搬防止のための感染制御方法、疫学情報の統合と分析などに統合的な知識をもつ感染症専門医の育成に努めています。また、感染症に対する新規検査技術、診断方法・治療方法の開発を行っています。私たちは、感染症内科医として、感染症のスペシャリストであると同時に、幅広い臓器を対象に診療を行うバランスのとれた内科医であることを目指しており、このことにより、医学と人類社会に貢献できるよう日々努力を重ねています。

精神医学の奥深さを知ろう

教授

岩田 正明



精神行動医学分野は、多様な精神の障害をもつ当事者やご家族の方々を対象として、診断、治療、社会復帰や復帰後の支援等の活動を行っています。こうした精神医療の活動の基礎には、人間の精神や行動およびそれらの病的状態に関わる幅広い科学的、心理社会的な知識が必要です。当分野では、統合失調症の認知機能障害、うつ病の認知の歪みに関する臨床研究やうつ病発症の分子メカニズムに関する基礎的研究を通じ、新しい治療法やリハビリテーションの開発につながる可能性のある知見を得てきました。しかし、科学的な努力だけでは十分とは言えず、当分野は、精神医療の本質的な役割である、当事者の苦痛に共感的に関与し続けることが出来る資質を磨くことにも力を入れています。精神医学はその困難さから、未知のことが多く、完成した分野ではありません。だからこそ、精神医学は、皆さんが一生をかけて取り組む価値のある奥深い診療・学問の分野といえます。

神経疾患の病態解明を目指す

准教授

足立 正



アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症をはじめとする神経疾患は、今なお根本治療がなく多くの患者さんが苦しんでおられます。さらにこれらの病気は、生前の検査のみでは確定診断を得ることができません。当教室では、これらの病気でお亡くなりになった方の病理解剖を行い、最終診断を行っています。さらに全国の研究機関と協力し、病理解剖で得られた検体を用いた各疾患の遺伝学的、生化学的研究や生前の臨床情報と病理所見を対比し、確定診断につながるバイオマーカーの探索等を行っています。また、基礎医学研究で得られた知見をヒト脳組織で確かめることも進めています。教育面では、神経疾患に対する講義・実習を幅広い学生と医師に対して行っており、これらの地道な積み重ねが、いつの日か治療法につながる病態解明の一助となればと考えております。ぜひ、私たちと一緒に神経疾患の謎に挑んでみませんか。

科学的根拠に基づいた 安全・安心の薬物療法と 医療イノベーションの推進

教授

島田 美樹



薬剤部では、安全で質の高い薬物療法の提供と新たな治療法の構築を目的に、医学系研究科の関連する研究室および各診療科と連携しながら、薬物動態学的研究、臨床分析化学的研究や医療薬学的研究を行っています。薬剤師の質の向上が求められる昨今、研究を通じて課題抽出力と理論的な思考能力を身につけ、薬剤師に重要な探求心と課題解決能力を養い臨床現場でその力を発揮できるよう指導しております。また、講座配属の医学科3年生や大学院医学系研究科の協力講座として大学院の学生を受け入れ、研究指導を通して次世代を担う医療人としての育成を心がけております。現在、主に「個別化医療の推進を目的とした薬の効果や副作用発現に係わる薬物代謝酵素や薬物動態関連因子などの遺伝子多型の迅速解析法の構築に関する研究」、ならびに「臨床と基礎の融合研究-治療効果や副作用発現のメカニズム解析-」を行っており、こうした研究を通じてこれからの医療の発展に貢献したいと考えております。これら研究に興味のある方は、一緒に挑戦してみませんか。お待ちしております。

医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)の 時代

准教授

寺本 圭



医療情報部は、2002年から電子カルテシステムを稼働させ「医療DX」を推進してきました。また、各医療機関に蓄積された診療データを医療者同士で共有するための地域医療連携システム「おしどりネット」や、患者さん向けの診療案内アプリ「とりりん」といったITインフラを構築しています。この医療情報ITインフラは、質の高いリアルワールドデータを継続的に収集することを実現し、それらのデータを研究者が評価・分析することによって、新しいエビデンスの発見や人工知能の開発に役立ちます。新しい知見やシステムは、医師の診断材料となるだけでなく、遠隔地の患者さんへ、モバイル端末を通して生活習慣病の予防や、個々の患者さんの状態にあわせた専門的医療として提供されます。このような医療情報のデータ活用サイクルを進めるためには、医療と情報処理技術、社会制度の理解に加えて、患者さんや医療者の視点に立ったインターフェースの設計開発と、診療データを分析する医療者の知識と経験が重要となります。医療情報部では、リアルワールドデータの活用を目的として一緒に研究を進めていただける人材を医学・工学・社会学のバックボーンを問わず募集しています。



生命科学および基礎医学の 研究者育成に特化し 30年以上トップを走り続けるパイオニア学科

MESSAGE

生命科学科長 畠 義郎
Yoshio Hata

生命科学科は日本で初めての「生命科学」という名を冠する学科として、1990年、医学部に創設されました。以来、生命科学や医学分野において世界的に傑出した研究成果を発信しています。生命科学という広範な分野の中で、本学科は生命現象の基本的な真理の探究に加えて、医学部の中にあることから、疾患の原因の解明や最先端

の治療法の開発を目指す研究者を育成することを目的としています。「生命の謎に挑みたい!」「病気の治療に貢献したい!」このような強い意欲を持つ若者が本学科に集い、サイエンスを楽しみ、お互いを高め合うことを願っています。私たちはそのために一人一人を全力でサポートします。



基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部生命科学科では、その教育目的を踏まえ、学生が本学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（生命科学）の学位を授与します。

1. 自然科学をはじめ一般的な教養に関する幅広い知識と、生命科学および基礎医学に関する深い知識の習得と理解、これら知識の獲得のための方法と技能を身につけている。
2. 生命科学の遂行に必要な基本技術とその原理の理解、解決すべき問題を自ら設定できる問題探索力、問題を適切な方法により解決に導く問題解決力を身につけている。
3. 国際的な広い視野を備えた柔軟かつ論理的な思考力、独創的な発想力を有している。
4. 生命科学における真理の探求や新しい技術の開発の重要性に対する深い理解、従来の常識や先入観に左右されない態度、他者と共同して研究を進めることができる協調性を有している。
5. 生命科学を学んだものとしての健全な倫理観と責任感を備えている。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部生命科学科は、卒業認定・学位授与の方針で示す能力や特性を学生が主体的に身につけることができるよう、次に掲げる方針のもとに体系的な教育課程を編成し実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 生命科学の専門知識とともに幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
2. 全学共通科目では、自然科学をはじめ一般的な教養を学ぶとともに、医学・生命科学を支える基礎的な知識および技術の習得を図ります。
3. 専門科目では、幅広い医学知識、専門性の高い生命科学知識、生命科学に必要な基礎技術の習得および生命倫理の理解を図ります。
4. 論理的思考力、独創的な発想力、的確な表現力およびコミュニケーション能力を育成します。同時に、真理の探求や新しい技術の重要性に対する理解を促します。

(2) 教育方法

目標とする学修成果を達成できるように、1～3年次では、教育課程・教育内容に挙げた内容について、講義および実習を通して学修を推進します。最終年次における「生命科学科特別研究」では、所属する研究室においてきめ細やかな指導を行います。これらについて、一対一の対話型および参加型教育を行い能動的な学習を推進し、主体的な問題探索力、問題解決力の育成と修得を図ります。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、各年次における試験、レポート等を用い、厳格に評価します。および実習での能動的な探求の姿勢については、実習参加の積極性や協調性などについて厳格に評価します。さらに、学修成果の達成度を可視化することに努めます。
2. 最終年次における「生命科学科特別研究」は、学部の定める成績評価基準に基づき、日常の研究に取り組む姿勢、研究態度、そして卒業論文により、学修成果の到達度を評価します。
3. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部生命科学科では、生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を目指す、次のような人を広く受け入れます。

1. 学修に必要な高等学校等までの理科（生物、物理、化学）の知識と基本的な語学力と国語力を備えた人
2. 現代の医学・生命科学及びその関連分野の動向・進展に関心があり、それらの知識・技術を学ぶとともに向上・発展させる研究活動に興味を持つことができる人
3. 真理探究の意欲を有し、創造的目標の達成にチャレンジでき、そして勉学・自己研鑽に努力をおしまない人
4. 協調性を備え、生命科学を通して国際的な広い視野と仕事への使命感を持って人類に役立っ喜びを感じる人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

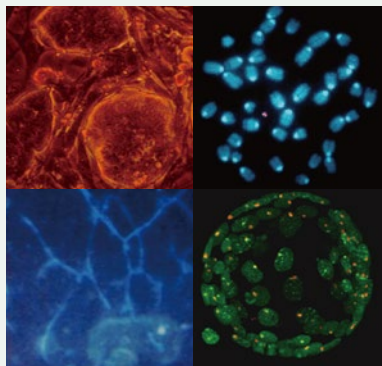
「生命科学」とは、生き物が生きている過程で起こる様々な事柄を、分子の動き、遺伝子の働き、細胞のふるまいなどから調べて、「いのち」の現象、その不思議さを科学的な視点で解き明かす学問です。その成果を医学、農学、工学、環境分野などに応用し、社会に貢献する学問でもあります。

本学科は、医学とその関連領域をつなぐ生命科学研究者の育成をめざして、平成2年に全国にさがけて設置されました。医師を養成する学科ではなく、生命現象の解明と、新しい時代の医療への貢献を両軸とする、4年制の学科です。

医学部にある学科の特色として、細胞や遺伝子などの生物学の知識に加えて医学関連の知識を学び、生命科学への理解をより深いものにしていきます。また、遺伝子操作技術や細胞解析などのバイオサイエンス技術を修得できます。さらに難病の疾患モデル動物の作成やiPS細胞を用いた再生医療など、最先端の生命科学研究への道が開かれています。

本学科は、医学科(基礎系・臨床系)および保健学科の講座、また研究推進機構との連携による充実した教育研究環境を持っています。隣接する染色体工学研究センターやとっとりバイオフロントでは、染色体工学を用いた先端的な研究や産学連携研究が行われています。さらに、新たに設置された「とっとり創薬実証センター」では、染色体工学技術で作出した資材を用いて抗体医薬や疾患治療薬などの医薬品の創出を目指しています。本学科学生はこのような環境で教育を受け、また、研究を行うことができます。

本学科から進学できる大学院として、本学医学系研究科の医科学専攻〔博士前期課程（修士2年間）、博士後期課程（博士3年間）〕が設置されています。また、研究内容によって、同じ医学系研究科の「臨床心理学専攻（修士2年間）」や博士前期課程修了後に「医学専攻（博士4年間）」への進学も可能です。本学科の卒業生の多くが、専門的な知識を学ぶべく、大学院に進学しています。



- ※1年次は鳥取キャンパス（鳥取市）で他学部の学生とともに学びます。
- ※1・2年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目（教養科目、外国語科目等）を学びます。
- ※2・3年次には、生命科学科3講座5分野それぞれの講義・実習・セミナーがあります。
- ※講義の一部は、医学科・保健学科の教員により行われます。

1年	2年	3年	4年
人体の構造と機能 栄養と代謝	実験動物・倫理学 基礎腫瘍学	環境衛生学 人類遺伝学	生命科学科特別研究(卒業研究)
健康と生体情報	社会環境医学	心の病	
人間発達と健康論	組織学	老年医学	
生命科学概論Ⅰ	生理学	周産期医学	
	生化学	臨床検査学(検査機器論)	
	病気と微生物	がんのメカニズムと治療	
	病気と病理	内科学概論	
	くすりと作用	外科学概論	
	生命科学概論Ⅱ	ゲノム医工学	
	コミュニケーション法	遺伝子制御学	
	遺伝子ベクター理論	分子生物学実習	
	生命科学基礎実習	染色体医工学	
	分子生物学概論	細胞ゲノム機能学実習	
	システム発生活生物学	神経科学実習	
	実験病理学概論	分子発生活生物学	
	遺伝生物学	発生活生物学実習	
	構造生物学・バイオインフォマティクス	生体防御機構学	
	遺伝子医療学概論	免疫学実習	
	再生医療学概論	実験腫瘍病理学	
	免疫学	実験病理学実習	
	細胞ゲノム機能学	各分野によるセミナー	
	基礎神経科学	特別講義Ⅲ～Ⅶ	※卒業研究は、生命科学科に加え、医学科、保健学科、染色体工学研究センター、研究推進機構などの幅広い分野の中から研究室を選択します。
	基礎発生活生物学	バイオ技術	
	システム神経科学	学外研修	
	特別講義Ⅰ～Ⅱ		

在学生の声

私は、生命科学科で「教科書に書かれた文字の情報」が「目の前で起こっている現象」に変わる瞬間を多く経験しました。

この学科では、1年生から3年生の間に、遺伝子、染色体、タンパク質、神経、がん、免疫、再生など幅広い医学・生物学の専門家による講義があります。3年生では、実際に研究資材を用いて、実習を行い、最先端の研究の一部に触れます。講義で基礎的な知識と最新の情報を学び、実習では講義で知ったことを活用して実験結果を分析します。この経験を通じて、私は知識を体験として学ぶことが出来ました。

講義の中には、製薬会社や海外で研究している先生の講義があります。加えて、病院に勤務する医師による講義や、医学科、保健学科などの他学科との合同講義もあります。どの講義も興味深いものばかりです。

生物学・医学の基礎研究から治療や検査まで幅広く学び、一緒に研究者を目指す仲間や、違う職種の医療者を目指す友達ができるのは「鳥取大学医学部生命科学科ならではの強み」です。充実した環境で私たちと未来の医療につながる生命科学を学びませんか。

黒岩 孝樹さん
生命科学科4年(大分県出身)

私は研究が好きで、将来は研究者になりたいと思い生命科学科への入学を決めました。本学科のカリキュラムでは、実践的な研究ができるのは4年次からですが、私は早く研究がしたかったので1年次から研究室を訪問し、長期休暇などを利用していくつかの研究室で研究に参加しました。

本学科の最大の魅力は、研究室の先生方がとても親切で、学生の希望を尊重してくださるところだと思います。研究室は豊富な知識や経験を持つ先生方や優しい先輩方、また、医師や検査技師まで様々な人たちがいて、とても楽しく学びが多いところです。ここでは最先端の研究を知ったり、自分で問題を提起し実験方法を考える力を身に付けることができます。研究室によって様々な研究を行っており、不自由なく研究できる設備もそろっています。

また、大学病院が隣接しており、先述したように研究に参加している医師もいるため、臨床研究についても知ることが出来、基礎研究の医療への応用を間近で感じることができます。こうした経験ができる場所は非常に限られていると思うので、私はとても恵まれた環境にいると強く感じています。本学の生命科学科は、探求心が強く研究が好きな方、生命現象を解明し医療に貢献したい方には最適な学科だと思います。



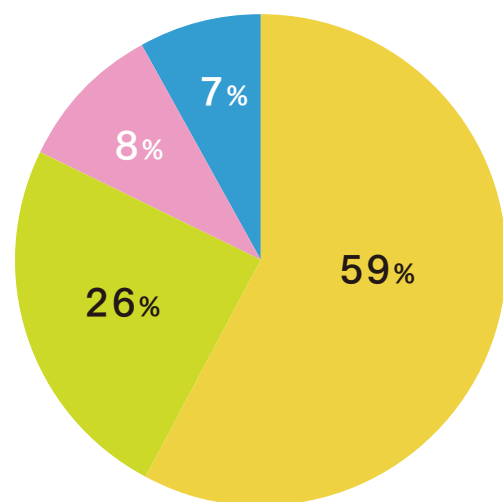
泉川 智香 さん
生命科学科3年(鹿児島県出)

卒業生・修了生の進路

生命科学科の卒業生の8割以上は、本学あるいは他大学の大学院博士課程（修士課程）に進学します。また、卒業生・大学院修了生の多くは、大学・研究機関における研究職のほか、製薬・食品企業の研究開発職や公務員・病院・出版関連企業等に就いています。今後、社会のニーズに対応して再生医療・遺伝子医療や臨床研究等のコーディネーターなど生命科学の知識が必要とされる新たな職種への進路も広がります。就職活動は、専任のスタッフがサポートしています。



学部卒業生の進路・就職先

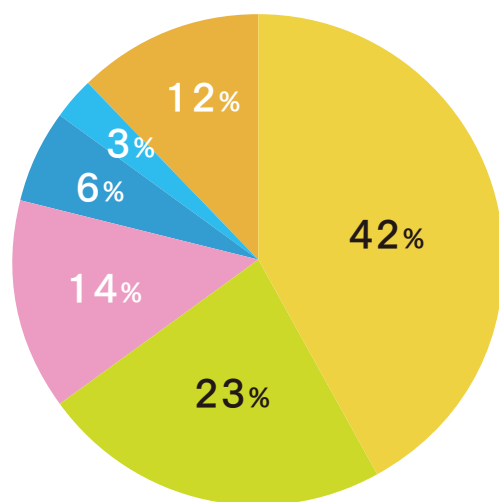


■ 本学大学院 ■ 他大学大学院 ■ 就職 ■ その他
(平成29～令和3年度)

主な進学先

鳥取大学大学院
東北大学大学院
東京大学大学院
東京医科歯科大学大学院
筑波大学大学院
名古屋大学大学院
京都大学大学院
大阪大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学
九州大学大学院

大学院修了生の就職先



■ 製薬・医療関係企業 ■ ヘルスケア・バイオ関係企業
■ 教育・研究機関 ■ 医療機関 ■ 食品関係企業 ■ その他

主な就職先

アステラス製薬
第一三共
協和キリン
バイエル薬品
塩野義製薬
大塚製薬
テルモ
旭化成
資生堂
科学捜査研究所

卒業生の声

私は、生命科学科で学部を過ごし、他大学大学院で博士課程を修了し、現在は米国イリノイ大学でテニュアトラック教員として研究に従事しています。入学当時は、医学研究を通して、効果的な治療を待つ難病患者さんに治療法を届けたいという希望を持っていましたが、実際に研究に触れてみると、社会貢献だけでなく生命の根幹を明らかにするという好奇心が強く刺激されました。細胞、組織の中は合理的に機能しているのに、そのメカニズムは明らかにされていないことが山ほどあります。自分の中の「なぜ?」「誰かの役に立ちたい」という思いに背中を押され、研究に勤しんでいます。

現在は、腸内炎症疾患モデルマウスを使い、腸内細菌がどのように我々の体に影響を及ぼすかを研究しています。

米国イリノイ大学テニュアトラック教員
(生命科学科 13期生)
佐野 晃之 さん



Q & A

医学科や既存の理工学部の生物系学科とどこが違うのですか？また、他大学の生命科学科との違いはどんなところですか？

最大の特徴は、医学部の中にある生命科学科だということです。基礎的な医学の講義を受けたり、医学科、保健学科との合同講義の機会もあるなど、理・工学部などの生命科学科に比べると、医療に役立てることをより意識した生命科学の教育・研究を指向しています。医学科、保健学科の講座と連携した卒業研究・大学院研究を行うことも可能です。生命科学科に隣接する研究推進機構、染色体工学研究センター、とっとりバイオフィロンティアなどの研究環境も充実しています。これは、本学科が設立からすでに30年あまりの実績を誇り、各センターとのしっかりとした連携があるからこそ出来ることです。さまざまな業界で活躍する1,000名にのぼる卒業生のネットワークを持っていることも強みです。先輩達がさまざまな形で皆さんをサポートしてくれます。一学年が少人数のため、同級生、先輩後輩や教員との距離がとても近い学科です。



今年度の入試から 推薦入試が大きく変わります！



出願期間：11月2日(水)～11月8日(火)

試験日：12月3日(土)

出願対象者：既卒生(令和3年度卒)も受験が可能に！

学科の個別ホームページでは「年中オープンキャンパス」を開催中です！
詳しい研究室紹介や在校生や卒業生のお話を見ることができます
年に2-3回、学科説明会(今年度はオンライン)を開催しています！
先生や先輩に、進路や大学生活、入試など直接質問できます

生命科学科
ホームページ



<https://www.med.tottori-u.ac.jp/lifesciences/>

つなげたい 病気の解明から治療に向けて！

教授

久郷 裕之



染色体には、ほとんどの生命現象に重要な働きをしているタンパク質を作るための設計情報(遺伝子)と構造や遺伝子の配置などを含め生物が経験してきた進化の痕跡が埋め込まれています。私たちは、この染色体の特性を利用した独自の染色体工学技術の開発によって自然界にない細胞を作り出し、病気の解明から治療への応用を目指しています。

1. 新しいがん抑制遺伝子の働きを解き明かし、発がんメカニズムの理解と診断・治療への応用
2. 細胞の老化が何故起こるのか？不死化能を獲得する発がん機構の解明からその謎に迫る
3. 染色体ベクターを利用した遺伝子治療あるいは人と同じような薬の反応を示す動物を作製し、薬物の代謝・安全性・毒性の評価システム開発
4. ヒトと同じような免疫反応を示す動物を作製し、抗体医薬つまり治療用の薬の開発

このように私たちの研究室では、基礎生物・再生医療・創薬部門などの様々な幅広い分野にまたがり研究に取り組んでいます。あなたも一緒に挑戦してみませんか？



学生実習風景

細胞の世界を覗けば 生命の原理が見えてくる

教授

初沢 清隆



私たちは、時として様々な疾病に罹り悩まされますが、その多くが未だ原因究明に至っていない状況にあります。私たちは細胞から個体レベルでの基礎的な生体機能(生体防御、遺伝子の調節制御など)を解明することが、一見遠回りのようですが個々の病因を明らかにする上でとても重要と考え研究を進めています。具体的には、①マクロファージのように病原微生物と闘う食細胞に備わっている特殊な機能はどのように発揮されるのか？②DNAのメチル化などゲノム構造がどのように調節され遺伝子の働きに関わっているのか？これらの解明をテーマに掲げ、分子イメージング技術や遺伝子工学技術などを利用し、分子の細胞内ダイナミクスの可視化システムや遺伝子導入細胞を作製しています。好奇心と謙虚な姿勢で細胞の世界を覗き、内包された美しい生命の原理の一つひとつ拾い上げ理解することが、疾病の原因解明や治療法の開発へと還元されるよう日々取り組んでいます。

「免疫」は諸刃の剣？

教授

常世田 好司



私達の身体は病原体を記憶することができます。その記憶によって、同じ種類の病原体が再び侵入したときには、迅速に病原体を取り除くことができます。ワクチンを開発する上で、この記憶力を自在に高めることができれば、あらゆるワクチンの能力を高めることができるかもしれません。一方で、自己免疫疾患やアレルギー疾患のように、自己や無害のものを病原体と間違い記憶してしまう病気が存在します。この病気を完治させる上で、この記憶力を喪失させることは、あらゆる自己免疫疾患やアレルギー疾患の完治に向けて、非常に有効であると考えられています。私たちの研究室は、免疫記憶の形成と維持のメカニズムを明らかにすることで、その記憶力を制御する方法を見つけ出し、新しいワクチンの開発や自己免疫疾患・アレルギーの完治につなげていくことを目指しています。良い記憶にも悪い記憶にもつながる免疫系の研究を一緒に進めていきましょう。

生き物が正確に 形をつくるしくみは何だろう？

教授

竹内 隆



私たちの体は精巧な形と特有のサイズをもった組織からできています。受精卵からこれらの組織が正確につくられるしくみは大きな謎です。一方、私たちヒトは、多くの組織を再生できません。ところが、両生類のイモリは四肢やレンズ、さらには脳や心臓までも再生します。このとき、失われる前と全く同じの形とサイズの組織が再びできます。すなわち、再生においても正確な形づくりが行われます。そのしくみも大きな謎なのです。私たちの研究室では、イペリアトゲイモリというイモリに注目し、個体での遺伝子操作に成功しました。一方でイモリでは発生や再生を操作する実験法、たとえば微小な組織の交換移植など、が古くからとても充実しています。私たちの研究室では、これらの技術を用いて、上記の発生と再生の謎の解明をめざしています。この謎が解ければ、私たちヒトでも多くの組織を大規模に(たとえば腕を丸ごと)再生できる日が来るかもしれません。そんな壮大な夢を抱きながら、私たちは日々、研究に取り組んでいます。

使って育つ脳のしくみ

教授

畠 義郎



古来、数多くの哲学者、心理学者、脳科学者が「私とは何か？」「世界はどう認識されるのか？」など様々な心の謎に取り組んできましたが、まだまだわからないことは山ほどあります。もののしくみがわからないときに有効な手段の一つは、その成り立ちを調べることです。子供の脳はどうやって育つのか？実は、脳は時間がたてば育つというものではありません。正しく使ってはじめて育つのです。ものを見る脳のしくみが発達する時には、きちんと「見る」経験が必要です。幼児期に眼をふさぐと、その眼の情報を運ぶ神経は発達できません。社会的な行動も同じです。どんな状況でどんな行動を選ぶのか、そのような人柄に関わる脳の特徴も育ち方に影響されます。経験が、どのようにして脳の発達を制御するのか？その仕組みがわかれば、心の育ち方や、それにまつわる様々な問題の解決法もわかるに違いありません。そう思って日々研究を続けています。

がんを知る、がん挑む

教授

岡田 太



がんは、日本人の一生のうちで2人に1人が患い、その半数が治療で治ります。しかし、3人に1人はがんで命を落としています。また、その10人のうち9人は転移で不幸の転帰を迎えています。がんは治る病気になってきましたが、未だに人類の最期に伴う疾患です。私たちの研究室では、がんや転移がなぜ起きるのかの原因論を探索する研究を行っています。これらの原因を明らかにすることで予防や治療の方法論を開発して、臨床への応用を目指しています。進行中の研究課題は、①肝転移のドライバー遺伝子Amigo2による転移予測と予防法の開発。②核酸医薬による転移予防。③腫瘍内血管新生阻害による新規がん退縮法の開発。④炎症による発がんの化学予防。⑤発がんに占める活性イオウ分子種の意義などです。あなたも鳥取大学医学部生命科学科でしか行うことのできない“がん研究”と一緒に始めてみませんか。

- 幼少期の脳の可塑性を成熟後に誘導する技術の開発
- 口腔扁平上皮がんにおける不死化抑制遺伝子の同定とその機能解析
- 再生医療応用を目指したHLA搭載人工染色体導入iPS細胞の作製
- ヒトがん細胞の悪性化進展に及ぼすAmigo2分子の新たな役割
- 上皮性HeLa細胞におけるtoll様受容体4の刺激依存的な局在化機構の解明
- 長寿命プラズマ細胞の維持に関わるインテグリンの役割
- 記憶ヘルパーT細胞形成を誘導する樹状細胞の同定
- 骨分化をモニターするレポーター細胞の作製
- イモリとマウスの心臓再生能力の違いを生み出す要因は何か？



個人の尊厳に基づいた看護実践能力と 幅広い分野で活躍する臨床検査技師の育成

MESSAGE

保健学科長 深田 美香

Mika Fukada

鳥取大学医学部保健学科は、平成11年10月に設置され、輩出した数多くの卒業生は、西日本を中心に全国各地で活躍しています。在学生は、自然に恵まれたこの米子の地で、勉学、課外活動において充実した、楽しい大学生活を送っています。

医療人にとってなにより大切にしなければならないもの、それは高い倫理観と責任感をもつことです。

保健学科では、豊かなコミュニケーション能力、いたわりの心、確かな臨床実践力を身に着け、医療・保健の分野でリーダーとして活躍できる人材を育成しています。学生が、人を人として敬い、その人の尊厳を守ることができる医療人として成長することを心から願い、教職員一同、全力で取り組んでおります。



保健学科看護学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部保健学科看護学専攻の教育課程を修め所定の単位を修得して卒業要件を満たし、鳥取大学の学位授与の方針に加え、以下の能力や特性を身につけたときに学士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護職者の役割と責務を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、倫理的に行動することができる。
2. 看護の基礎となる人間と健康生活を理解し、人間・健康・環境・看護に関する専門的知識と技術の修得、さらに、あらゆる対象の健康生活のために科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有している。
3. 対象者の利益のために保健・医療・福祉をはじめ種々の関係者と連携・協働し、調整する能力を有している。
4. 看護学の発展のために、看護実践の中から課題を自立的に探求し、論理的・創造的に解決し続ける能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻は、学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 鳥取大学のグランドデザインの柱である現代的教養と人間力を身につけるために文化・社会・自然に関する幅広い科目を編成します。
2. 全人的医療人の基盤として、こころ・身体・社会の構造と機能について学習し、さらに、看護学の視点から生活者の健康について学習できるカリキュラムを展開します。
3. あらゆる対象の健康生活を科学的根拠に基づき支援するために、看護の対象、看護実践の場、健康にかかわる課題、看護実践の方法について学習を充実します。
4. 看護の本質を追究し続ける姿勢を身につけるために、看護の論理的追究および実践的追究の方法に関する学習を充実します。

(2) 教育方法

1. 自ら学ぶ力を高め、学びを統合するために、対話型・参加型・実践型教育の展開に努めます。
2. 看護の対象となる人々が生活する地域・在宅・医療・福祉・教育施設等の多様な場において看護実践教育を行います。

(3) 学修成果の評価

1. 学部のでめる成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、知識・技能・態度について、試験、レポート、評価表等により厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部保健学科看護学専攻では、看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を志す、次のような人を広く受け入れます。

1. 健康に関わる様々な問題について、深く広い関心のある人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 相手の言葉に耳を傾け、相手の立場を思いやることができ、自らの確に表現する力のある人
4. 問題解決のために柔軟な発想と多面的・論理的な思考力を持ち、自分の考えを表現できる人
5. 自ら課題を見出し主体的、創造的に探究して自己の成長を目指す人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

保健学科検査技術科学専攻 基本方針

Diploma Policy 【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、鳥取大学の卒業認定・学位授与の方針に加え、次に掲げるように能力や特性を身につけたときに学士(保健学)の学位を授与します。

1. 幅広い視野から人間を理解し、倫理的に行動する態度と姿勢を有している。
2. 臨床検査学の高い専門的知識と技術を身につけている。
3. 医療人としてのコミュニケーション能力、思考力、判断力、協調性を有している。
4. 地域のみならず国際的な医学・医療の発展に貢献できる科学的探究能力を有している。

Curriculum Policy 【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 幅広い知識と確かな実践力をもった人材を育成するために、バランスのとれた教養教育と専門教育を行います。また、自律的な生涯学習力を養成します。
2. 臨床検査技師に必要な科目を中心にして、専門科目を体系的に学べるよう教育課程を編成します。臨床検査技術の習得につながる実習科目を充実します。
3. 医療人として必要な医学の専門科目に加え、コミュニケーション能力を育成する科目を設置し、他者との違いを理解し、他者を思いやる心と倫理観を涵養します。
4. 大学附属病院を含む地域の医療施設で実習を行い、臨床現場での体験学習を充実させます。
5. 最先端のバイオサイエンスや医学・医療の実際を学べる教育課程を編成します。また、課題研究など国際的に通用する問題解決能力・創造的表現力を育成する科目を設置します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により学修成果の達成度を厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、これを検証し、教育課程の編成に反映します。

Admission Policy 【入学者の受入れ方針】

医学部保健学科検査技術科学専攻では、生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 科学的な思考力、判断力、表現力があり、主体的に学ぶ意欲のある人
2. 医学・医療や生命医科学を学ぶための基礎的な知識・技能のある人
3. 倫理観を備え、周囲の人と協調して行動できる人
4. 地域の医療・保健に加えて、国際的にも貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

MESSAGE

看護学専攻主任 松浦 治代
Haruyo Matsuura

看護学専攻では、いつでも、どこでも、誰にでも、切れ目なく、すべての人が生涯にわたり、より健康に、また病気や障がいがあってもその人らしく生活できることを目指した支援ができる看護職（看護師、保健師、助産師）を養成します。人の尊厳を守ることを基盤とし、看護実践の基礎となる知識と技術の習得はもちろん、対象者に寄り添い共に支えるチーム関係者と連携・協働できる能力、豊かなコミュニケーション能力、そして専門職業人として学び続ける基礎としての自律的に学ぶ力、の育成にも力を入れています。

看護学は、人と関わる、自らも人として大きく成長できる魅力ある学問領域です。私たち教員も、日々学生から新しい気付きをもらっています。専門職としての基盤を共に学んでいきましょう。



専攻の特色

1. 模擬患者さん
参加型演習

医療現場で必要とされる知識・技能・態度をできるだけ現実に近い状況の中で訓練するために市民ボランティアによる模擬患者参加型の演習を取り入れています。



学生の声

良い緊張感の中で、その場の患者さんの状況、状態に合わせた関わりを学べます！

2. 附属病院での
臨地実習

鳥取大学医学部附属病院の実習では、患者さんの思いに寄り添った、その人らしさを支える看護の実践を学びます。



学生の声

実習指導者さんや教員の丁寧で熱心な助言を受けられるので、実習がとても充実しています！

3. 地域の方と関わる
看護活動

地域で暮らす人を支える看護活動として、生活習慣など各地域の健康課題をテーマに健康教育等を実施し、予防的な視点も学びます。



学生の声

より健康的な生活習慣をご提案するためには、住民さんおひとりおひとりの日頃の生活を知ることが重要です！

取得可能資格

看護師、保健師、助産師（選択）、養護教諭二種

助産師資格については、受講生が10名程度と制限されており、希望者が多数の場合は学内で受講者を選考します。養護教諭二種免許は保健師資格取得後に申請可能です。

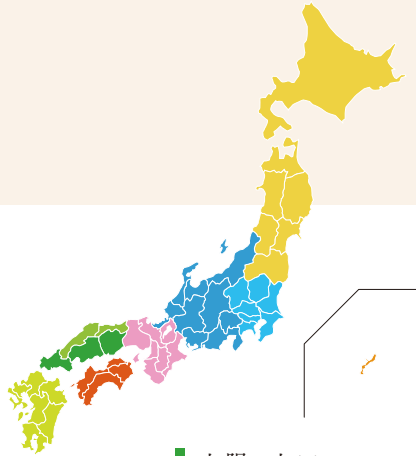
Curriculum

※1年次は鳥取キャンパス（鳥取市）で他学部の学生とともに学びます。
※1～3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目（教養科目、外国語科目等）を学びます。
※2年次以降は米子キャンパス（米子市）で専門基盤科目、専門科目を学びます。
医学部附属病院を中心として総合的な実習の体制がとられています。
※医学科・生命科学科との密接な連携のもとで教育・研究を行います。

1年	2年		3年		4年
人体の構造と機能Ⅰ	心の病	地域・在宅看護学	保健医療福祉行政論Ⅱ	精神看護学実習	災害支援・ボランティア
人体の構造と機能Ⅱ	病気と病理	公衆衛生看護学Ⅱ	人類遺伝学	地域・在宅看護学実習	医療コミュニケーション
人間発達と健康論	病気と微生物	公衆衛生看護学Ⅲ	公衆衛生看護学Ⅳ	公衆衛生看護学実習	包括的支援統合演習
栄養と代謝	疾病論Ⅰ	健康障害と看護	健康学習と看護	助産診断・技術学Ⅰ	クリティカルケア看護学実習
コミュニケーション法	疾病論Ⅱ	成育支援と看護	尊厳のある死と看護	助産診断・技術学Ⅱ	包括的支援統合実習
人体の構造と機能Ⅲ	くすりと作用	地域での暮らしと看護	療養看護実践過程演習	助産診断・技術学演習Ⅰ	看護学研究法Ⅰ
基礎看護学	保健医療福祉行政論Ⅰ	メンタルヘルスと看護	公衆衛生看護実践過程演習	助産業務管理論	看護学研究法Ⅱ
公衆衛生看護学Ⅰ	疫学	生涯発達看護実践過程演習	クリティカルケア看護実践過程演習		看護倫理
看護実践過程基盤演習	国際保健医療論	生活援助論演習Ⅱ	地域生活看護実践過程演習		病の体験と医療
生活援助論演習Ⅰ	周産期医学	ヘルスプロモーション実習	生活援助論演習Ⅲ		特別講義Ⅱ
健康生活支援実習	老年医学	看護実践過程基盤実習：個人	生活援助論演習Ⅳ		特別講義Ⅲ
研究成果活用法	がんのメカニズムと治療	看護実践過程基盤実習：地域	治療援助論演習Ⅰ		家族看護論
特別講義Ⅰ	母性看護学	リプロダクティブヘルスケア論	治療援助論演習Ⅱ		助産診断・技術学演習Ⅱ
	小児看護学	助産学概論	母性家族看護学実習		助産診断・技術学演習Ⅲ
	成人看護学	基礎助産学	小児家族看護学実習		助産業務管理実習
	老年看護学		成人看護学実習		助産学実習
	精神看護学		老年看護学実習		包括的地域助産学実習

卒業後の進路

（主な就職先・進学先：平成29～令和3年度）

国家試験合格率、就職内定率は、
毎年高い水準を維持しています！
鳥取県内をはじめ、全国各地に就職しています！

関東

がん研有明病院
東京女子医科大学病院
東京都立駒込病院
東京労災病院
横浜労災病院
東京医療センター
順天堂大学医学部附属順天堂医院
日本赤十字社医療センター
国立成育医療研究センター
聖路加国際病院
神奈川県立こども医療センター
国家公務員共済組合連合会
JCHO相模野病院
東京医科大学病院

近畿

宮津市（保健師）
京都大学医学部附属病院
京都第一赤十字病院
京都武田病院
市立福知山市民病院
和歌山県立医科大学附属病院
北野病院
寺元記念病院
淀川キリスト教病院
大阪大学医学部附属病院
大阪母子医療センター
愛染橋病院
大阪医科大学附属病院
大阪医科薬科大学病院
宝塚市立病院
祐生会みどりが丘病院
関西医科大学附属病院
関西医科大学総合医療センター
大阪府立病院機構
近畿中央病院

山陰

鳥取県立中央病院
鳥取市（保健師）
鳥取市立病院
鳥取生協病院
鳥取赤十字病院
鳥取大学医学部附属病院
山陰労災病院
米子病院
博愛病院
大山町保健福祉センター
松江赤十字病院
鳥根大学医学部附属病院
鳥根県立中央病院
鳥取県看護協会訪問看護ステーション
鳥取医療センター
鳥取県立総合療育センター
米子市（保健師）
鳥取県（保健師）
尾崎病院
恵仁会信生病院
済生会境港総合病院

山陽・山口

岡山大学病院
倉敷中央病院
岡山市立市民病院
岡山市（保健師）
マツダ病院
広島大学病院
広島西医療センター
福山医療センター
広島市立病院機構
山口大学医学部附属病院
中国中央病院
岡山医療センター
大和会松田病院
美作市（保健師）
北播磨総合医療センター

四国

三豊総合病院
愛媛大学医学部附属病院

中部

東海大学医学部附属病院

九州・沖縄

九州医療センター
諫早総合病院
長崎医療センター
池友会福岡和白病院
福岡輝栄会病院
佐賀大学医学部附属病院
琉球大学病院

進学先

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
岡山大学養護教諭特別科
鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻
鳥根県立大学別科助産学専攻
鳥取県立倉吉総合看護専門学校助産学科
兵庫県立総合衛生学院

卒業生の声

私は神経内科病棟で勤務しています。難病患者の方など生涯に渡り在宅支援を必要とする方が多く入院しておられます。病棟勤務をするなかで、患者さんの退院後の生活を具体的にイメージした退院支援をしたいと思うようになり、訪問看護ステーションに1年間出向し、在宅看護の実際を経験する機会を得ました。実際に利用者宅を訪問し、ケアの提供やアドバイス、緊急時対応、在宅関係機関や病院との連携を行いました。ご本人・ご家族の希望を元に、予測される問題点、必要なケア、トラブル時の対応等について、ご本人・ご家族と十分に話し合いを行うことの大切さを再認識しました。また在宅での看取りを経験し、治療だけでなく看護のあり方について自身の看護観にも新たな気づきがありました。現在は出向から帰って約1年が経ちます。出向で学んだ広い視点でリスクを予測することを意識しながら、患者指導やサービス調整を行い、また、多職種協働で患者さん・ご家族の方の意思決定支援に携われるよう日々努めています。

山城 由佳さん

勤務先：鳥取大学医学部附属病院（保健学科 看護学専攻11期生）

在学生の声

1年次は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、先生方を始め多くの方々の協力のおかげで病棟での実習や比較的多くの講義を対面で行うことができました。学生にとって学習しやすい環境が用意されており、1年を通して一般教養や看護の基礎が身についたと思います。専門科目では看護とは？コミュニケーションで求められることは？などを考える機会となり、自分の考えを深めることができました。また、活動制限はあったものの、サークル活動やアルバイトでは他学部の生徒や先輩、地域の方と出会う事ができ、コミュニティを広げることができました。2年次からは米子キャンパスという新たな環境で、1年次で身につけた知識を基に、共に学ぶ友人と助け合いながら懸命に取り組んで行きたいと思います。



河本 夏帆奈さん

保健学科 看護学専攻2年
（鳥取県出身）

片寄 佑海さん

保健学科 看護学専攻3年
（鳥根県出身）

森山 慶亮さん

保健学科 看護学専攻4年
（鳥根県出身）

1年次は湖山キャンパスで他学部生の人と一緒に一般教養を学んだり、サークル活動などを楽しみました。2年次からは米子キャンパスでより専門的な学習が始まり、演習や講義を通して多くのことを学びました。3年次からは実習も始まり、新型コロナウイルスの影響で多くの制約がある中でしたが臨地で実際に体験したり、考えることで、深い学びにつながりました。4年次では、実習、課題研究、就活などがあり、より忙しくなりますが友人と励ましながら日々を過ごしています。また、部活動などを通していろいろな人と関わることで、自分の成長にもつなり、勉学の励みになっています。

MESSAGE

検査技術科学専攻主任 森 徹自
Tetsuji Mori

検査技術科学専攻では、臨床検査技師養成を目的とした教育プログラムを実践しています。卒業生の多くは各種医療機関に就職し、即戦力として活躍しています。この成果は、国家試験合格率や就職率の高さに裏打ちされています。4年間の教育で得られるものは、単なる知識や技術だけではありません。医療人としての高い倫理観、コミュニケーション能力の涵養にも力を入れています。また、常に進化する医学・医療技術に貢献するためには、科学的思考能力や研究力が必要になります。各種実習や、4年次の卒業研究を通じて、科学の楽しさに触れることができます。さらに研究を極めたい人には、大学院進学の道も用意されています。将来の夢に向かって進む皆さんを、我々は全力で応援します。



実習の様子



検体検査学実習

血液、尿など生体試料中には、蛋白質、酵素、脂質など様々な成分が含まれています。それぞれの成分の特徴や働きを理解し、分析技術を習得します。



人体組織学実習

組織学では、人体の構造を細胞レベルで学びます。人体の各臓器から作成した組織標本を顕微鏡下で観察し、正常な微細構造について学びます。



病理組織細胞学実習

検体処理、標本作製および染色技術の習得と、正しい標本観察を目的に学びます。



採血実習

採血も臨床検査技師の大切な仕事です。安全な採血を行えるように、シミュレーターや模擬患者さんでしっかりと練習し、知識と技術を十分に習得します。



超音波検査実習

超音波検査は、体内の臓器を画像化して調べる検査です。診断装置に関する知識はもちろん、解剖学の知識も必要であり、熟練が必要な検査です。



医用工学実習

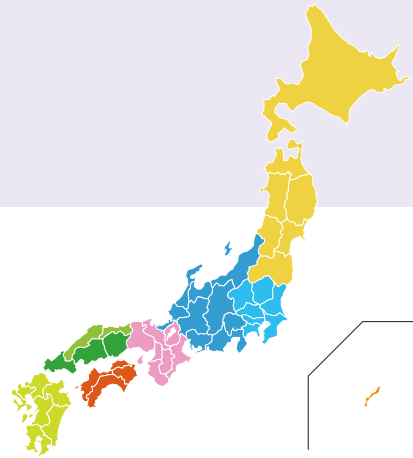
電気回路、電圧測定など医用機器を取り扱う際に必要な基本的工学知識と技術の習得を目的に学びます。

取得可能資格 臨床検査技師

卒業後の進路

(主な就職先・進学先：平成29～令和3年度)

国家試験合格率、就職内定率は毎年高い水準を維持しています。卒業生の多くが出身地で就職しています。



北海道・東北

第一岸本臨床検査センター

関東

新日本科学PPD(株)BML

中部

稲沢市民病院
岐阜県総合医療センター
松阪総合病院

山陰

鳥取生協病院
鳥取県保健事業団
鳥取県立中央病院
鳥取市立病院
鳥取赤十字病院
藤井政雄記念病院
鳥取県立厚生病院
ミオ・ファミリー・クリニック
鳥取大学医学部附属病院
済生会境港総合病院
日野病院組合日野病院
松江市立病院
松江赤十字病院
平成記念病院
松江生協病院
出雲市立総合医療センター
安来第一病院
鳥根県立中央病院
益田赤十字病院
雲南市市民病院
鳥根県職員

近畿

伊勢赤十字病院
滋賀県立総合病院
住友病院
大阪回生病院
医誠会病院
大阪府済生会野江病院
国立病院機構近畿グループ
大阪赤十字病院
大阪市立大学医学部附属病院
大阪府立病院機構
市立池田病院

関西医科大学附属病院
JCHO星ヶ丘医療センター
河内総合病院
済生会富田林病院
大阪労災病院
堺市総合医療センター
和泉市立病院
京都第二赤十字病院
京都市立病院
京都桂病院
和歌山県立医科大学附属病院

国保日高総合病院
神戸市民病院機構
済生会兵庫東病院
関西労災病院
西宮渡辺心臓脳・血管センター
西宮回生病院
兵庫医科大学病院
宝塚市立市民病院
市立川西病院
公立八鹿病院
公立豊岡病院組合豊岡病院

三田市民病院
姫路市職員
姫路赤十字病院
加古川総合保健センター
北播磨総合医療センター
加古川中央市民病院
IHI播磨病院
兵庫県立病院
兵庫県臨床検査研究所

山陽・山口

岡山西大寺病院
脳神経センター大田記念病院
岡山中央病院
心臓病センター榊原病院
岡山市立医療総合センター
岡山済生会総合病院
川崎医科大学附属病院
ファルコバイオシステムズ岡山研究所
しげい病院
倉敷平成病院
岡山医学検査センター
倉敷成人病センター
倉敷中央病院

水島中央病院
水島協同病院
福山市医師会
福山臨床検査センター
日本鋼管福山病院
日本赤十字社中四国ブロック血液センター
原田病院
呉医療センター
呉共済病院
JA広島総合病院
国立病院機構中四国ブロック
小郡第一総合病院
萩市民病院

四国

高松赤十字病院
四国こどもとおとなの医療センター
三豊総合病院
田岡病院

九州

九州大学病院
飯塚病院
鹿児島市立病院

進学先

鳥取大学大学院
岡山大学大学院
京都大学大学院

卒業生の声



皆さんこんにちは。私は臨床検査技師として鳥取大学医学部附属病院で働いています。臨床検査技師は血液や尿などの検体を取り扱う検体検査や心電図や超音波検査などの生理機能検査を主に行っています。私は現在輸血・遺伝子検査部門で輸血製剤の管理や血液型検査、また新型コロナウイルス感染症のPCR検査などに携わっています。どちらも命を守る、感染を食い止めるといった点で責任は大きいですがとてもやりがいのある仕事です。業務を行う中で、学生の頃に講義や臨床実習で学んだ事が活かされていると日々実感しています。

勤務先：鳥取大学医学部附属病院
池口 拓哉さん
(保健学科 検査技術科学専攻16期生)

在学生の声



西尾 優弥さん
保健学科 検査技術科学専攻3年
(鳥取県出身)

1年次では鳥取キャンパスで、2年次以降の基礎となる教科や一般教養を中心に学びました。2年次からは米子キャンパスに移り、臨床検査技師になるためのより専門的な知識を学んでいます。

新型コロナウイルスの影響により、授業や実習が突然オンラインになったり、予定されていた病院見学をすることができなくなるなど大変な時期ではありましたが、先生方の工夫のおかげで、オンラインと対面を組み合わせた充実した授業を受けることができています。将来たくさんの人を助けられる臨床検査技師になれるように頑張っていきたいと思っています。

2年次からは附属病院が隣接する米子キャンパスで学んでいます。病院で働いた経験を持つ先生方による専門的な授業がとても増え、難しく感じる時もありますが、自分の興味のある分野の勉強ができるため、頑張れています。また、学内での実習もたくさん始まり、将来臨床検査技師として働くという実感が少しずつわいてきます。他にも、米子キャンパスでは医学部生だけの部活やサークルがあります。所属することで、他学科の学生とのつながりができたり、同じ学科、コースの先輩ができたりして、勉強のことも含め色々なことになる話を聞くことができます。さらに、勉強で疲れても部活動で楽しく体を動かすことで気分転換になっています。これからも勉強と部活動を両立させながら、将来の夢に向かって頑張っていきたいです。

福岡 萌さん
保健学科 検査技術科学専攻3年
(兵庫県出身)

Curriculum

※1年次は鳥取キャンパス(鳥取市)で他学部との学生とともに学びます。
※1～3年次は下記の専門科目の他に、全学共通科目(教養科目、外国語科目等)を学びます。
※2年次以降は米子キャンパス(米子市)で専門基礎科目、専門科目を学びます。
医学部附属病院を中心として総合的な実習の体制がとられています。
※医学部・生命科学科との密接な連携のもとで教育・研究を行います。

1年	2年		3年		4年
人体の構造と機能	心の病	人体組織学	人類遺伝学	免疫検査学	予防検査学
健康と生体情報	病気と病理	人体組織学実習	老年医学	輸血・移植検査学	医療コミュニケーション
栄養と代謝	病気と微生物	生体情報検査学	がんのメカニズムと治療	病態生体情報検査学	血液診断学
人間発達と健康論	くすりと作用	生体情報検査学実習	医療データ解析管理学	生理検査の臨床応用	画像診断学
	疾病論I	医用工学	公衆衛生学	臨床病理学概論	臨床実習
	疾病論II	医用工学実習	医療安全管理学	病態血液学実習	課題研究(卒業研究)
	細胞と情報伝達	遺伝子検査学	医療安全管理学実習	病原寄生虫学演習	
	生命維持と免疫	遺伝子検査学実習	検査総合管理学	生命工学概論	
	生物と環境	検査機器論	関係法規	輸血・移植検査学実習	
	コミュニケーション法	検査学概論	病理組織細胞学	病態生体情報検査学実習	
	周産期医学	病理検査学	病理組織細胞学実習		
	国際保健医療論	病理検査学実習	病態血液学		
	保健福祉行政論	検体検査学	臨床化学検査学		
	分析検査学	検体検査学実習	臨床化学・免疫検査学実習		
	分析検査学実習	病原体検査学Ⅰ	病原体検査学Ⅱ		
	情報科学概論	基礎免疫輸血学	病原体検査学実習		

心に寄り添い
より高いQOLを目指す教育と研究

教授

萩野 浩



基礎看護学は看護についての基本的知識や技術を身につけ、全ての看護学の基礎・土台となる分野で、その研究対象となるのは人です。わが国はこれまで経験したことがない超高齢社会となり医療は高度化しています。そこで当講座では専門的な看護知識・技術の習得に加えて、心に寄り添い、患者さんのより高いQOLを目指した教育に取り組んでいます。また人の誕生や死に際しての様々な新しい問題が起こっていますので、出生前診断や生命倫理問題についても、学生とオープンな議論を行っています。研究でも、心に寄り添い高いQOLに寄与するため、疾患QOLの評価・解析や疫学調査を行っています。遺伝医療での患者・家族に対する看護職者の役割についての研究や終末期ケア・緩和ケアをめぐる生命倫理問題についての研究は当講座の特色です。また看護師生涯教育のためのコミュニケーションスキルやリフレクションに関する研究も当講座の主要な分野です。

山陰で最初の
がん看護専門看護師の育成校

教授

中條 雅美



成人・老人看護学講座で成人看護を担当しています。成人看護学では、成人期にあり病とともに生きている人の病態や療養生活についての理解を深め、それに対する看護について学びます。学部や大学院では、手術看護、救急看護、慢性看護、がん看護における学習や研究を行っています。特に大学院においては、大学院生の研究指導だけでなく、山陰で唯一のがん看護専門看護師の育成も担当しています。

現在行っている研究は、成人看護学の中でもがん看護や糖尿病看護に関することです。実際に乳がんや糖尿病とともに生きる人にインタビューをして、その方にしかわからない体験を教えてください、どのような看護をしていったらよいかを追求しています。成人期は対象となる年齢の幅が広く、様々なライフサイクルにあり多様なライフスタイルを持っておられます。実際に体験した人でないといわれないとおっしゃられる方も多く、その通りだと教わることも多いです。

神経幹細胞について

教授

森 徹自



皮膚や肝臓などは少し傷がついても修復され、機能も回復します。一方、脳梗塞や外傷などで脳が傷ついて神経細胞が死ぬと、機能回復は非常に困難です。それは、基本的に大人の脳では新しい神経細胞は新たに産生されないためです。しかし、ヒトを含む大人の哺乳類の脳の限られた部位にも神経幹細胞と呼ばれる未熟な細胞が存在し、正常な状態でも新しい神経細胞が産生されることが示されています。大人の神経細胞は、胎生期に多数存在する神経幹細胞の一部が生き残ったものと考えられていますが、なぜ一部の部位に大人になっても神経幹細胞が存在するのか、分かっていません。また、習慣的に体を動かしたり、新しいことにチャレンジしたりすると、新しい神経細胞が増えやすいこともわかっていますが、なぜなのか未だに不明です。このような問題が分かれば、脳を修復、再生することに繋がると考え、研究を行っています。

Niemann-Pick病C型
(NPC)の研究

教授

二宮 治明



NPCは脂質蓄積症のひとつで、致死性の遺伝性疾患です。ふたつの原因遺伝子は確定していて、その遺伝子型と表現型については詳細な記載があります。しかし、基本的な問題の答えは謎のままです。まず、原因遺伝子がコードする蛋白質の機能はいったい何なのか。これらの欠損がどうして脂質の輸送障害を引き起こすのか。そして、なぜ神経細胞は死んでいくのか。

遺伝性疾患の治療を考えると、遺伝子治療ないし幹細胞治療しかないというのはロジカルには正しい。残念ながら、これを持っていただいつになるかわからないというのが現実であり、そもそも可能なのかどうか今の私たちにはわかりません。そういう状況下で、病態を理解することを目指しています。その過程で、すこしでも患いのbenefitになる情報が得られれば、と思います。

次世代に繋げる専門職：助産師
新たな命・こども・女性を支援する

教授

鈴木 康江



本学では学部で助産師養成の教育・研究・社会的貢献をしています。助産師は女性や家族に寄り添い生涯にわたる女性の健康を支える医療専門職です。少子化が進む中、支援を必要としている女性は増える傾向にあります。赤ちゃんが授からない、予期しない・望まない妊娠、不安な妊娠生活、育児負担・困難感、産後の鬱、思春期・更年期・老年期の性の課題など、抱える問題は沢山あります。これらの解決をめざし、日々、教育・研究に取り組んでいます。現在、助産学分野では思春期の青少年たちへのピアカウンセリング支援、全ての女性や赤ちゃんが出産前から切れ目なく助産師によるケアを受けることができる社会を目指した助産師出向支援活動、臨床助産師が常に最新の知識・技術を学ぶことができる教育活動などの社会支援活動もしています。将来を担う子ども達、産み育む母親・女性のための、次世代へと命と健康を繋げる医療専門職になりませんか。

てんかんのある人を
支えるための研究

教授

吉岡 伸一



てんかんという病気を聞いたことがありますか？てんかんという言葉は知っていても、てんかんのある人がどの位いるのか、どのような病気なのか、どのような対応が必要かについては、十分に知られていません。てんかんをもつ人は100人に1人程度（有病率）で、乳幼児から高齢者まで幅広く発症する神経疾患のひとつです。しかし、日本では有病率などの疫学研究は十分ではありません。そこで、山陰地区でのてんかんをもつ人の疫学調査や高齢者施設等でのてんかんをもつ人の実態調査を行ってきました。また、てんかんをもつ人を支える、医師、看護福祉関係職種、訪問看護師、訪問介護士、さらに大学教員や学生を対象に、てんかんに対する知識、経験、態度、対応状況などの研究も行ってきました。てんかんをもつ人を支えるためには、学生をはじめ全ての人がてんかんを正しく理解することが大切です。正しい知識の普及啓発のため日々研究に取り組んでいます。

睡眠障害と心疾患

教授

加藤 雅彦



日本人は世界で一番睡眠を犠牲にしている国民です。睡眠時間を削ってでも勉強や仕事・家事をすることが美德とされています。私たちの研究室では様々な睡眠障害が心疾患に及ぼす影響を研究しています。心疾患（心不全、高血圧）患者さんやその他生活習慣病・肥満患者さんの睡眠を終夜ポリソムノグラフィーで評価し、各種睡眠指標と臨床的背景との関連性を調べています。また、高齢化が進むわが国では「心不全パンデミック」といって、入退院を繰り返す心不全患者さんが急増しています。心不全患者さんは夜間睡眠中に無呼吸などの睡眠呼吸障害を呈します。これらの患者さんへの適切な持続陽圧呼吸療法や睡眠衛生指導を提供できるよう、その病態生理について心臓超音波装置を用いて研究しています。心不全は多面的な疾患であり様々なphenotypeが存在します。その一つとして睡眠障害に関連した心不全への予防・診断・治療に関する適切な提案ができるよう研究に励んでいます。

新しい脂質検査の開発を
目指して

教授

白井 真一



皆さん、コレステロールと聞くどのようなイメージを思い浮かべますか。卵、不健康、肥満…。血中コレステロールの増加は血管を詰まらせる原因の一つと考えられており、動脈硬化や冠動脈疾患などのリスク因子になっているため、健康に悪いイメージを持つ人が多いと思います。しかし、身体にとっては不可欠であり、生体膜成分やホルモンの原料などとして重要な役割を担っています。コレステロールは水に溶けないため、血中では蛋白質との複合体であるリポ蛋白質として運搬されています。リポ蛋白質の異常は運動不足や食生活の乱れにより生じやすく、糖尿病、肥満、脂肪肝、メタボリックシンドロームなどで高頻度に認められます。リポ蛋白質には様々な種類があることが知られており、健康診断などではHDL-コレステロールやLDL-コレステロールなどの検査があります。しかし、どのリポ蛋白質を臨床検査で測定すべきなのかは実はよくわかっていません。私たちは新しいリポ蛋白質分析法の開発に取り組み、より有用な臨床検査の確立を目指して日々研究を行っています。



オリエンテーション

大学入門ゼミ

教員との懇親会

オープンキャンパス

オープンキャンパス

国家試験壮行会

学園祭

卒業式

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

前期授業開始
全学合同入学式
(鳥取市)
ふれあい朝食会
(1年生)
大学入門ゼミ
(医学科・保健学科1年生)
教員との懇親会
(保健学科2年生)

慰霊祭
(医学科)
大学入門ゼミ
(生命科学科1年生)
医学部1年次
スポーツ大会

鳥取大学開学記念日
(6月1日)

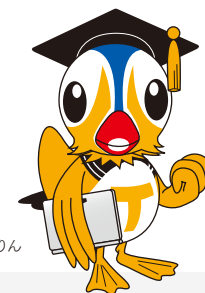
前期定期試験

夏季休業
西日本医科学生
総合体育大会
オープンキャンパス

動物慰霊祭

勉学だけでなく、
クラブ活動やサークル、アルバイトなど、
うまく両立しながら楽しい日々を送っています♪

鳥取大学イメージキャラクター とりりん



後期授業開始

錦祭(学園祭)
オープンキャンパス

冬季休業

後期定期試験
白衣授与式
(医学科4年生)

国家試験壮行会
(医学科・保健学科)
国家試験
(医学科・保健学科)
春季休業

医学部卒業式・謝恩会
進級生
オリエンテーション
(生命科学科・
保健学科新2年生)



課外活動

体育系



合気道部/V-TEC Jr.(バレー)/弓道部/競技スキー部/剣道部/ゴルフ部/硬式テニス部/サーフィン部/サイクリング部/サッカー部/柔道部/準硬式野球部/ソフトテニス部/女子バスケットボール部/女子バレーボール部/女子フットサル部/水泳部/漕艇部/ダンス部/卓球部/男子バスケットボール部/男子バレーボール部/男子フットサル部/バドミントン部/武産合気道部/ラグビー部/陸上競技部/駅伝部/PORKS(軟式野球)/MONSTER BASH Jr(バスケットボール)/空手道部/L-sports Reasort/レジャーサークル/ハンドボールサークル

文化系

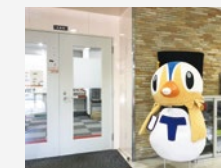


アカベラサークル/アトリエ自由ノート(美術部系)/学生 ACLS(救命救急サークル)/カクテル部/華道部/ギターマンドリン部/キャリア発掘研究会:SEED/筋ジストロフィーボランティア部/軽音楽部/国際保健友の会/ハクナマタタ/茶道部/サブカルチャー研究会/室内管弦楽団/写真部/JAZZ研究会/しゅわっち(手話サークル)/将棋部/スプラウト(混声合唱団)/大山家族(小児糖尿病患者支援活動)/地域医療研究部/熱帯医学研究会/パッチアダムスクラブ(小児科病棟交流活動)/peer in heart(性教育サークル)/PriCit/TC-SARCH/鳥取大学ぬいぐるみ病院/ルービックキューブサークル

学生生活サポート

保健管理センター、 学生支援センター、学生相談ルーム

身体に異常を感じたり、慢性疾患のある人、ケガをした人、「勉強に身が入らない」「大学生活になじめない」など、こころの悩みを持っている人も気軽に相談できます。



大学生協 食堂・ショップ

学生の健康的な食生活を応援しています。安全な食材を利用しやすい価格で、栄養のバランスのとれたメニューを提供しています。ショップには文具や書籍、生活用品、お弁当などが揃っています。

食 堂 OPEN / 8:00 CLOSE / 19:30
ショップ OPEN / 8:20 CLOSE / 18:00



就職支援室

キャリア相談員を配置して履歴書の書き方、自己分析のやり方、面接対策など相談を受け付けています。また、身近な就職担当教員に相談することもできます。

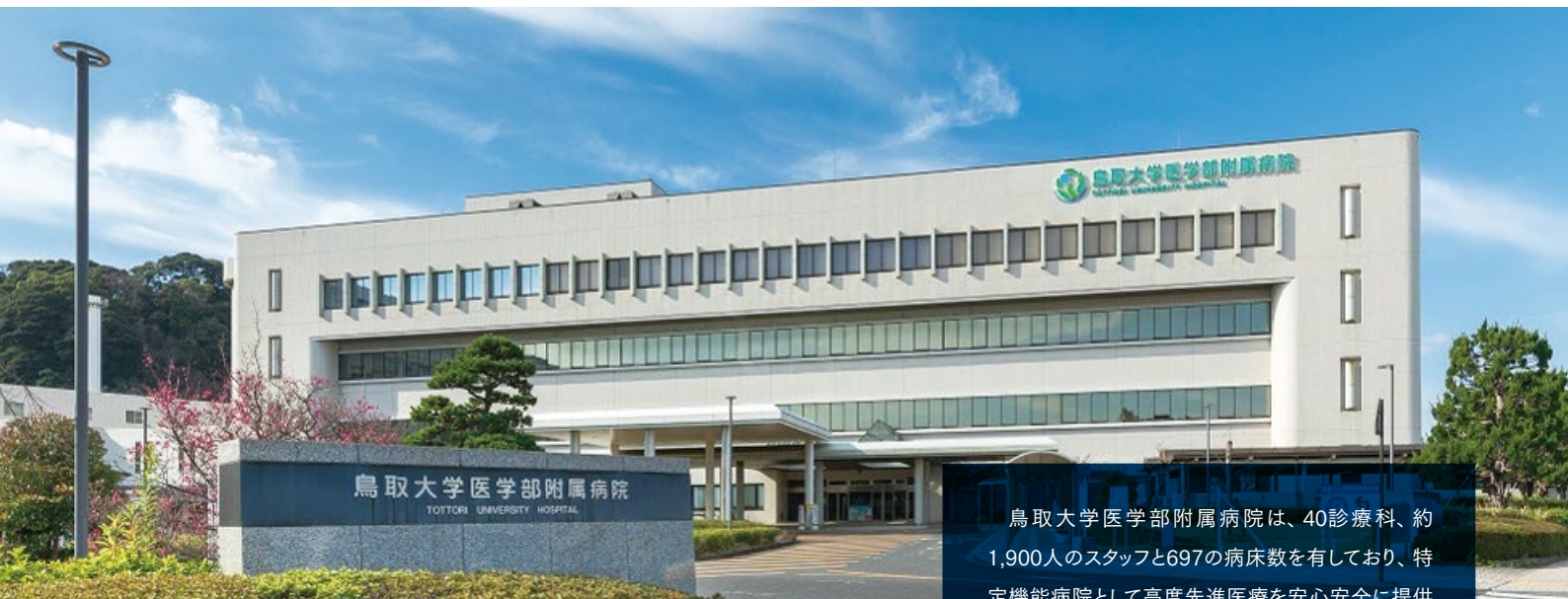
医学図書館

医学書他約15万冊の図書の他、電子書籍、電子ジャーナル、学術文献データベースなど、インターネットでアクセスできるデジタル資料も充実しています。



OPEN / 8:40 CLOSE / 23:00 (授業期間、試験期間の平日)

1F ブラウジングコーナー 雑誌、新聞があります。
2F 閲覧室・パソコンルーム 試験シーズンは満席になるほど多くの学生が使用しています。
3F グループ学習室 グループで利用できる小部屋を貸し出しています。



基本理念

地域と歩む高度医療の実践

鳥取大学医学部附属病院は、40診療科、約1,900人のスタッフと697の病床数を有しており、特定機能病院として高度先進医療を安心安全に提供すること、および医学の発展、医療人の育成に努めています。一人一人の能力が発揮できる組織づくりを通じ、地域医療への貢献を目指しています。

高度医療の提供

ロボット支援手術

内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」導入をきっかけに、診療科の垣根をなくした「低侵襲外科センター」を開設。平成31年1月より、ダビンチXiとXの2台体制となり、ロボット支援手術の更なる推進と、センターを通じた各職種のスムーズな連携で安心安全な最新医療を提供しています。

低侵襲外科センターは
（ 設立10周年を ）
（ 迎えました ）

新たに開始したロボット支援手術

- ・食道がん
- ・脾臓の腫瘍(中四国初)
- ・子宮体がん
- ・副腎良性腫瘍
(国内初 ※保険未収載)



組織横断的な チーム医療の実践

当院では、一人一人の患者さんに沿った適切な治療を効率的に行うために、診療科や部門の枠組みを超えたチーム医療に取り組んでいます。



地域医療の「最後の砦」を担う

平成30年3月から当院を基地病院として、鳥取県ドクターヘリ事業が開始されました。

迅速で高度な救急医療を提供し、救急医療体制の充実に貢献します。



入試情報

2023年度 募集人員

学科・専攻		入学定員	募集人員				
			前期日程		後期日程	学校推薦型 選抜Ⅱ	社会人
医学科		80*	一般枠 58	—	20	—	若干人
			鳥取県枠 2				
生命科学科		40	30	5	5	若干人	
保健学科	看護学専攻	80	45	5	30		
	検査技術科学専攻	40	22	5	13		

※医学部医学科では、前期日程で「地域枠(募集人員19人(鳥取県枠12人、兵庫県枠2人、島根県枠5人))」及び学校推薦型選抜Ⅱで緊急医師確保対策に基づく「特別養成枠(募集人員5人)」を継続申請予定です。予定であり、変更があり得ますので、学生募集要項及びホームページで必ず確認してください。

2023年度 試験内容

学科・専攻		学力検査等の 区分	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等	
			教科	科目名等	教科	科目名等
医 学 科		前期日程	国語	国語（必須）	数学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B
			地歴 公民 数学	世B、日B、地理B、 倫・政経 数Ⅰ・数A（必須） 数Ⅱ・数B（必須） 物理、化学、生物 から2	理科	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物
		学校推薦型選抜Ⅱ	外国語	英、独、仏 から1 〔5教科7科目〕	外国語 その他	英語 面接
生 命 科 学 科		前期日程	国語	国語（必須）	数学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B
			地歴 公民 数学	世B、日B、地理B、 現社・倫・政経、倫・政経 数Ⅰ・数A（必須） 数Ⅱ・数B（必須） 物理、化学、生物 から2	理科	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物
		後期日程	理科	物理、化学、生物 から2	外国語	英語
		学校推薦型選抜Ⅱ	外国語	英、独、仏 から1 〔5教科7科目〕	その他	面接
保 健 学 科	看 護 学 専 攻	前期日程	国語	国語（必須）	外国語	英語
		後期日程	地歴 公民 数学 理科	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、 現社・倫・政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿・会、情報 から1 物理基礎、化学基礎、生物基礎 から2 又は物理、化学、生物 から2 英、独、仏 から1 〔5教科6科目〕	その他	小論文 面接
		学校推薦型選抜Ⅱ	外国語	英、独、仏 から1 〔5教科6科目〕	その他	小論文 面接
	検 査 技 術 科 学 専 攻	前期日程	国語	国語（必須）	数学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B
		後期日程	地歴 公民 数学	世B、日B、地理B、 現社・倫・政経、倫・政経 数Ⅰ・数A（必須） 数Ⅱ・数B（必須） 物理、化学、生物 から2	外国語	英語
		学校推薦型選抜Ⅱ	理科 外国語	物理、化学、生物 から2 英、独、仏 から1 〔5教科7科目〕	その他	小論文 面接

2023年度 鳥取大学医学部入学者選抜試験日程一覧

大学入学 共通テスト (試験日)		試験日	合格発表
1月14日(土) 1月15日(日)	一般選抜〔前期日程〕	2月25日(土) 2月26日(日)*	3月7日(火)
	一般選抜〔後期日程〕 (生命科学科・保健学科)	3月12日(日)	3月20日(月)
	学校推薦型選抜Ⅱ	12月3日(土)	2月8日(水)
	社会人選抜(保健学科)		
	私費外国人留学生選抜	2月25日(土)	3月7日(火)

※2月26日(日)は医学科のみ

詳細はこちらから

令和5年度入学者選抜
概要、鳥取大学ホーム
ページ入学試験情報を
ご確認ください。



■ ホームページアドレス

<http://www.admissions.adm.tottori-u.ac.jp/>